

(様式第 10)

金大病総第 66 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人金沢大学長
山崎 光悦

国立大学法人金沢大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒920-1192 石川県金沢市角間町
氏 名	国立大学法人金沢大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人金沢大学附属病院

3 所在の場所

〒920-8641	電話 (076) 265-2000
石川県金沢市宝町13番1号	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 内分泌・代謝内科 3 呼吸器内科 4 循環器内科 5 腎臓内科 6 血液内科 7 神経内科 8 リウマチ科 9 腫瘍内科 10 漢方内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

- (注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。
- (注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓血管外科 2 呼吸器外科 3 胃腸外科 4 内分泌外科 5 整形外科 6 脳神経外科 7 肝臓・胆のう・膵臓・移植外科 8 乳腺外科 9 腫瘍外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46床	0床	0床	0床	792床	838床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	379人	91.5人	470.5人	看護補助者	53人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	11人	4人	15人	理学療法士	12人	臨床検査技師	60人
薬剤師	51人	0.7人	51.7人	作業療法士	7人	衛生検査技師	2人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	10人	その他	0人
助産師	18人	0人	18人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	827人	5.9人	832.9人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	0人	0.7人	0.7人	栄養士	0人	その他の技術員	17人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	156人
管理栄養士	8人	0.7人	8.7人	診療放射線技師	39人	その他の職員	26人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年7月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	41人	眼科専門医	11人
外科専門医	35人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	20人
小児科専門医	19人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	10人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	6人
		合計	211人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (蒲田 敏文) 任命年月日 平成28年4月1日

平成28年4月1日から医療安全管理委員会委員長として業務を行っている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	728.0人	5.1人	733.1人
1日当たり平均外来患者数	1462.5人	61.4人	1523.9人
1日当たり平均調剤数			1340.8剤
必要医師数			164.1人
必要歯科医師数			3.7人
必要薬剤師数			25人
必要(准)看護師数			419人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	462 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	202 m ²	病床数	16床	
	[移動式の場合]	台数	12台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	73 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	559 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 免疫発光測定装置、全自動免疫測定装置、ディスクリット方式臨床化学自動分析装置、検体前処理装置、蛋白分画電気泳動分析装置、免疫比濁測定装置、心電図解析用全自動電気泳動分析装置、迅速糖尿病生理機能検査装置、迅速糖化診断生理機能検査装置、自動浸透圧分析装置、乾式臨床化学分析装置、自動化学分析装置、大腸生理機能予備検査装置、総合生理機能検査前輸血支援システム、赤血球沈降速度測定装置、汎用血液ガス分析装置、血液検査システム、呼気中13C02分析装置、臨床検査支援システム、恒温器、血液検査装置、心疾患関連マーカー自動測定器システム、遠心機、蒸留水製造装置、尿化学分析装置、顕微鏡、精子特性分析機			
細菌検査室	94 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、全自動細菌検査システム、クリーンベンチ、サーマルサイクラー、結核菌迅速診断装置、マイクロチップ電気泳動システム、嫌気ワークステーション、全自動遺伝子解析システム、遺伝子解析装置、恒温器、炭酸ガス培養装置、遠心機、乾熱滅菌器、高圧滅菌器、純水製造装置、顕微鏡			

病理検査室	112 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動免疫染色装置、自動固定包埋装置、自動染色装置	
病理解剖室	134 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 無影灯、解剖台、計量器	
研究室	888 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液ガス分析装置、マイクロプレートリーダー、手術支援ロボット、セルアライブシステム(CAS)+急速凍結装置、超低温フリーザー、低温恒湿装置、バイオハザード対象用キャビネット、遠心分離機、インキュベーター、高速タンパクブロッティングシステム、オートクレーブ、クリーン・ベンチ、顕微鏡、蛍光実体顕微鏡、薬用冷凍冷蔵庫、低温冷凍庫、ドラフト	
講義室	267 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室 収容定員 300 人
図書室	146 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室 蔵書数 1900 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	79.4%	逆紹介率	64.1%
算出根拠	A：紹介患者の数	10,682人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,051人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	536人	
	D：初診の患者の数	14,126人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
未定				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自家液体窒素処理骨移植	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 骨腫瘍に対する手術療法に際し、患者自身の罹患骨を用いて再建する方法。切除骨から腫瘍病巣を取り除いた後、液体窒素で冷却処理し、腫瘍切除後の骨欠損部の再建に用いる。従来用いられてきた熱処理等と比較し、軟骨基質の温存、蛋白・酵素の温存が可能で処理後も骨形成因子の活性が保たれるため骨癒合に有利である。術後の関節機能が温存されるほか、容易に処理を行うことができる。			
医療技術名	LDLアフェレシス療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 本件は、重度尿蛋白(3 g/day 以上、又は尿蛋白/尿クレアチニン3 g/gCr 以上)を伴い血清クレアチニンが2 mg/dL 未満、薬物治療下で血清LDL-コレステロールが120 mg/dL 以上である糖尿病性腎症患者を対象として、LDL アフェレシス治療の有効性及び安全性を評価する多施設共同単群試験である。リポソーパーを用い、LDL アフェレシスを施行する。原則として、登録後2 週間以内にLDL アフェレシスを開始し、これまでの報告(添付文献1 から3 及び5)に沿って、6 から12 回を12 週間以内に施行する。なお、LDL アフェレシス開始以降のLDL コレステロールや尿蛋白等の低下推移や全身状態の変化等が多様であり、上記のとおりこれまでの報告に沿い6 から12 回までで総合的に施行回数を判断するため、被験者毎にその回数が異なる。標準的には、1 回の施行時間を2~3 時間、血漿処理量を約3,000 mL(目安:体重kg あたり血漿処理量50 mL)、施行間隔を2~7 日とするが、被験者の体重や状態により調節する。抗凝固薬は、ヘパリンを標準的に使用する。ブラッドアクセスは、直接穿刺又は留置カテーテルにて行う。			
医療技術名	術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 対象症例は、組織学的に浸潤性乳癌と診断された女性(病期Stage~IIIA及びIIIB)で根治手術及び標準的な術前又は術後化学療法が施行された(対象によっては標準的化学療法の省略を可とする)、エストロゲン受容体陽性かつHER2陰性で、再発リスクが中間以上である患者とする。本試験に登録された症例は、標準的術後ホルモン療法単独、又は標準的術後ホルモン療法とTS-1の併用療法のいずれかに割り付けられ、両群ともに標準的術後ホルモン療法5年間を実施、併用療法群は標準的術後ホルモン療法と同時にTS-1を1年間投与する。TS-1体表面積及びクレアチニンクリアランスによって規定された投与量を朝食後及び夕食後の1日2回、14日間連日経口投与し、その後7日間休業する。これを1コースとして、投与開始から1年間、投与を繰り返す。			
医療技術名	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 本試験は術前診断T1N0M0、腫瘍長径4cm以下と診断された単発性の早期胃癌症例を対象として、「SNをLN転移の指標とした個別化手術群」を行い、その根治性・安全性を検証する第II相多施設共同単群試験である。すべての症例にSN生検を行い、術中SN転移陰性の場合にはSN流域切除を原則とした縮小胃切除(噴門側胃切除、幽門保存胃切除、胃部分切除、分節切除)を行って「縮小手術群」(A群)とする。流域切除範囲によって縮小手術が困難な場合には従来通りの胃切除術(幽門側胃切除術・胃全摘術)(B群)を実施する。また、SN転移が陽性の場合にはD2LN郭清と定型胃切除(幽門側胃切除術・胃全摘術)(C群)を行う。Primary Endpointは5年無再発生存割合、Secondary EndpointsはSN同定率、転移検出感度、3年無再発生存割合、3年・5年全生存割合、術後QOLとする。Primary Endpointすなわち個別化手術の根治性・安全性の評価は、本試験登録A~C群(個別化手術群)の手術成績とこれまで報告されてきた同じ早期胃癌に対する手術成績を比較し、A群のみの部分集団での予後についてもSecondary Endpointとして同時に検証する。術後QOLに関しては「個別化手術群」内での比較も行う。			
医療技術名	131I-MIBGを用いた内照射療法 難治性褐色細胞腫(パラガングリオーマを	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 褐色細胞腫のうち、(1)初発時に原発巣の高度な局所進展を有するもの、(2)初発時に遠隔転移を有するもの、(3)外科的切除後に局所再発を来したもの、(4)外科的切除後に遠隔転移を生じたもののいずれかで、かつ外科的切除や根治的放射線外照射が不可能なものは難治性の褐色細胞腫と考えられる。本先進医療は、I-123 標識3-ヨードベンジルグアニジン(I-123 3-iodo- benzylguanidine: 123I-MIBG)集積陽性のこれら難治性褐色細胞腫(パラガングリオーマを含む)患者を対象として放射線内照射療法用薬剤であるI-131 標識3-ヨードベンジルグアニジン(131I-MIBG)を投与し、その安全性及び有効性を評価する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	83
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	35
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	20
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	24	60	再生不良性貧血	105
6	パーキンソン病	115	61	自己免疫性溶血性貧血	
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病	7	63	特発性血小板減少性紫斑病	77
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	16
11	重症筋無力症	98	66	IgA腎症	13
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	11
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	72	68	黄色靱帯骨化症	17
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	16	69	後縦靱帯骨化症	111
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	81
17	多系統萎縮症	24	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	55	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	5
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	25
23	プリオン病	4	78	下垂体前葉機能低下症	70
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	17	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	142
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	25
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	18
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	12
34	神経線維腫症	18	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	22
36	表皮水疱症	5	91	パッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	111
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	32	95	自己免疫性肝炎	9
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	171
42	結節性多発動脈炎	27	97	潰瘍性大腸炎	232
43	顕微鏡的多発血管炎	33	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	16	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	18	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	320	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	132	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	423	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	51	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	29	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161		家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162		類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	163		特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164		眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165		肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166		弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	167		マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	168		エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	169		メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170		オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171		ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172		低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	173		VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	174		那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	175		ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	176		コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	177		有馬症候群	
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	178		モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179		ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180		ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181		クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182		アペール症候群	
133	メビウス症候群	183		ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184		アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185		コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症	186		ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187		歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188		多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189		無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190		鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191		ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	192		コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193		ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194		ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195		ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196		ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197		1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198		4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199		5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	204		エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205		脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206		脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207		総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208		修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209		完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	4	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膻炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	3

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・退院支援加算2
・特定機能病院入院基本料(一般病棟)	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料
・医師事務作業補助体制加算1(75対1)	1. 母体・胎児集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	2. 新生児集中治療室管理料
・看護補助加算2(50対1)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・療養環境加算	・小児入院医療管理料4
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1. 2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科応急入院施設管理加算	・
・精神病棟入院時医学管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算あり	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・人工臓器検査
・糖尿病合併症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料1	・神経学的検査
・がん患者指導管理料3	・ロービジョン検査判断料
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・院内トリアージ実施料	・画像診断管理加算2
・外来放射線照射診療料	・遠隔画像診断
・ニコチン依存症管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心臓MRI撮影加算
・薬剤管理指導料	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料(歯科)	・無菌製剤処理料
・歯科治療総合医療管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・持続血糖測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・国際標準検査管理加算	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・精神科作業療法
・胎児心エコー法	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ヘッドアップティルト試験	・医療保護入院等診療料

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・生体部分肝移植術
・透析液水質確保加算1	・同種死体肝移植術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・歯科技工加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・羊膜移植術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1、及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・輸血管管理料Ⅱ
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・放射線治療専任加算
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下肝切除術	・高エネルギー放射線治療

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
GSK3 β 経路を標的とする大腸がんの病態解明と治療法開発の基盤形成	源 利成	がん進展制御研究所	¥4,800,000	補委	日本学術振興会
大腸がんにおける β -カテニン核移送に作用する核膜孔複合体因子の探索と機能解析	源 利成	がん進展制御研究所	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
エネルギー代謝特性に基づく消化器がん病態解明と制御への応用	堂本 貴寛	がん進展制御研究所	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
PI3 KおよびERK/パスウェイを標的としたKRAS変異腫瘍に対する新規治療開発	衣斐 寛倫	がん進展制御研究所	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
EGFR変異肺癌のEMTに起因する変異型EGFR選択的TKI耐性克服治療の開発	福田 康二	がん進展制御研究所	¥900,000	補委	日本学術振興会
腎コロボーマ症候群の遺伝子診断法確立と急性腎障害バイオマーカー開発	古市 賢吾	附属病院	¥2,000,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌骨転移微小環境におけるCCL2を介した癌細胞増殖・浸潤機構の解明	成本 一隆	附属病院	¥100,000	補委	日本学術振興会
肥満時の薬物動態変動による医薬品副作用の回避戦略	崔 吉道	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
長鎖ノンコーディングRNAを基軸としたC型慢性肝疾患の病態制御	島上 哲朗	附属病院	¥900,000	補委	日本学術振興会
心不全状態での肝臓機能の破綻が心臓リモデリングへ与える影響	薄井 荘一郎	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
進行性腎障害におけるTLR7を介した免疫担当細胞制御の意義	岩田 恭宜	附属病院	¥1,225,000	補委	日本学術振興会
PIGA遺伝子変異造血幹細胞の選択的増殖におけるCD109分子とTGF- β の役割	山崎 宏人	附属病院	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
好中球二次顆粒欠損症の新規C/EBP ϵ 変異と好中球分化異常に関する研究	和田 泰三	附属病院	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
培養肥満細胞による胸腺機能回復：骨髄移植における致死性慢性GVHDの制御	西村 良成	附属病院	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
慢性炎症を背景とした食道癌におけるアラキドン酸カスケードの制御と発癌抑制効果	尾山 勝信	附属病院	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
Zfp57遺伝子系をターゲットとした大腸癌に対する新規治療法の開発	高村 博之	附属病院	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
肝の難病“類洞閉塞症候群”の病態解明と新規予防法・治療法の開発	田島 秀浩	附属病院	¥900,000	補委	日本学術振興会
多孔質足場を用いた動脈瘤開口部の新生血管壁構造の誘導実験	内山 尚之	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会

小計 18件
¥24,725,000

不安定性を有する骨粗鬆性脊椎の力学解析 -最適な強度を有する固定材料の模索-	出村 諭	附属病院	¥670,000	補委	日本学術振興会
変形性関節症の軟骨損傷に対する脂肪由来幹細胞を用いた予防と治療に関する基礎実験	加畑 多文	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
末梢血中における子宮内膜癌幹細胞の検出とその臨床的意義の検討	中村 充宏	附属病院	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
顎変形症患者の周期期における気道通気状態と睡眠呼吸障害の解明	大井 一浩	附属病院	¥1,450,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来間質細胞による心筋再生医療の作用機序に関する研究	高村 雅之	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
食塩感受性高血圧の成因に関するエピジェネティクス解析	武田 仁勇	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症におけるregulatory B細胞の機能解析および新規治療法の開発	松下 貴史	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
酸化ストレスが精神疾患病態生理に果たす機能的重要性の解明：うつ病の敵か、味方か？	戸田 重誠	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
肝動脈化学塞栓術におけるナノミセルを用いた薬剤導入と集積方法に関する研究	南 哲弥	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
食道癌放射線耐性機序解明とHDAC阻害薬による放射線耐性克服の基礎的検討	二宮 致	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
膵癌放射線治療における線維化ならびに抗癌治療誘発EMT抑制に関する研究	中川原 寿俊	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
難治性良性脳腫瘍に対するアクアポリン1を標的とした血管新生抑制の治療戦略	林 康彦	附属病院	¥700,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌の再燃およびドセタキセル耐性獲得メカニズムにおける微小環境の影響	角野 佳史	附属病院	¥400,000	補委	日本学術振興会
実験的緑内障濾過手術におけるハニカムフィルムの有用性	奥田 徹彦	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
DICにおける炎症と凝固の相互作用遮断と血管作動性物質	朝倉 英策	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
医学研究に関する各種倫理指針の統合を目指す包括的研究<被験者保護と公益性>	村山 敏典	附属病院	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
心臓における交感神経刺激受容体に対するカテーテル焼灼の影響	村井 久純	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
遺伝性不整脈の新規原因遺伝子検索およびゼブラフィッシュを用いた不整脈重症度評価	林 研至	附属病院	¥700,000	補委	日本学術振興会
肝硬変微小環境による肝がん幹細胞発生維持制御機構の解明	山下 太郎	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症における心筋内微小循環の評価と臨床応用	坂田 憲治	附属病院	¥1,700,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥19,220,000

上皮-間葉連関に着目したLPA1-MRTF-SRFシグナルの腎線維化にはたす意義	坂井 宣彦	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
食品や化粧品に含まれる蛋白による脳βアミロイドーシスの促進に関する研究	濱口 毅	附属病院	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
モデルマウスを用いたIgG4関連疾患の病態の解明と治療法の確立	川野 充弘	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
N-13アンモニアPETと短時間撮影心筋SPECTの統合診断によるリスク層別化	松尾 信郎	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
梗塞後左室リモデリングの病態に関するマルチトレーサ生体分子イメージングの研究	瀧 淳一	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
血管外血小板凝集による乳癌細胞の転移形質獲得の病態解明と新規治療法の開発	井口 雅史	附属病院	¥700,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞を応用した骨軟部腫瘍切除後組織欠損の再生医療と蛍光イメージング評価	林 克洋	附属病院	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌に対するユビキチン-プロテアソーム系を標的とした治療戦略の確立	小中 弘之	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
婦人科癌におけるテロメラーゼ活性化機転に基づく末梢血腫瘍細胞の検出・解析法の確立	高倉 正博	附属病院	¥900,000	補委	日本学術振興会
咽頭扁桃におけるM細胞の機能解析：反復性中耳炎発症の内的因子の解明	杉本 寿史	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
上咽頭癌の前転移ニッチ構築機構解明と治療用エクソソーム開発	脇坂 尚宏	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
ラット心筋虚血による梗塞巣へのサイトカイン吸着カラムを用いた血液浄化療法の効果	岡島 正樹	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の浸潤・転移におけるInvadopodiaのメカニズムの解明	加藤 広祿	附属病院	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
デキサメタゾン併用によるカルボプラチンの好中球減少重篤化	板井 進悟	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
タルセバ錠の吸収低下回避のための簡易懸濁法に関する検討	小川 由紀	附属病院	¥400,000	補委	日本学術振興会
経口C型肝炎治療における医師・看護師・薬剤師による協働プロトコールの構築	矢口 邦子	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
肺構造モデル解析に基づく機能的残気量（FRC）測定の新システム同定	大江 宏康	附属病院	¥300,000	補委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群におけるLA検査標準化を目指した検体処理法の検討	木村 美香	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
血液がんにおけるA・B抗原減弱とその他の血液型減弱との関連性の検証	佐藤 英洋	附属病院	¥400,000	補委	日本学術振興会
APTT正常例における内因系凝固因子活性の分布に関する研究	柴山 正美	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥16,300,000

16SrRNA解析を用いた細菌同定	竹森優喜子	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
深部静脈血栓症急性期における凝血学的マーカーと下肢静脈エコーの有用性に関する研究	寺上 貴子	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
気分障害患者における体性感覚弁別課題を用いた事象関連電位の研究	南部 裕子	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
臨床で活用できる書字能力の定量的評価法の確立	堀江 翔	附属病院	¥200,000	補委	日本学術振興会
免疫不全患者における血漿中CMV-DNA量測定 of 臨床的意義に関する研究	前河 晶子	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
男性の尿路・性器・肛門悪性腫瘍とヒトパピローマウイルスとの関連性についての検討	八重樫 洋	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
遺伝子マスターレギュレーターSATB1の頭頸部癌遺伝子発現制御機構	近藤 悟	附属病院	¥700,000	補委	日本学術振興会
幹細胞ニッチに着目した軟骨膜片移植による長期形態維持性耳介軟骨再生法の開発	小室 明人	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
細胞競合現象に基づく上咽頭癌発癌機構の解析と新規治療法の開発	近藤 悟	附属病院	¥3,000,000	補委	日本学術振興会
閉塞性細気管支炎における筋線維芽細胞の役割とその制御機構の解明	高戸 葉月	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
タンパク質合成系への作用からみたN-アセチルシステインの抗精神病作用機序の解明	西川 宏美	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
男性における尿路性器・咽頭・肛門のHPV感染率についての疫学調査	重原 一慶	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
革新的プロテオミクスによる髄液中の膠芽腫バイオマーカーの同定	古田 拓也	附属病院	¥1,800,000	補委	日本学術振興会
薬物動態変動要因としての栄養組成および腸内細菌叢環境の関与	嶋田 努	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
心房細動のリズム不整が血栓形成に及ぼす影響に関する検討	田中 仁啓	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
糖尿病における心・腎線維化機序に関わる新規骨髄由来細胞の同定と解析	相良 明宏	附属病院	¥1,800,000	補委	日本学術振興会
腸管免疫を介した腎・腸関連機序の解明	中出 祐介	附属病院	¥2,000,000	補委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来肝細胞を用いた家族性高コレステロール血症に対する移植治療の検討	岡田 寛史	附属病院	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチにおける糖鎖制御機構の解明	伊藤 清亮	附属病院	¥700,000	補委	日本学術振興会
MLL遺伝子再構成を有する難治性乳児白血病の病態解析から新規治療法開発を試みる	伊川 泰広	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥21,900,000

肝細胞癌における肝幹細胞形質と上皮間葉移行発現に対する画像バイオマーカーの検討	米田 憲秀	附属病院	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
肝移植後拒絶反応における類洞血管外血小板凝集関与の解明と新規治療の開発	中沼 伸一	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
ビタミンB2投与による肺動脈血流を利用した肺区域同定法の開発	齋藤 大輔	附属病院	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
「心の理論」ネットワークの再構築と機能温存を目的とした次世代覚醒下手術法の確立	木下 雅史	附属病院	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
くも膜下出血後脳血管攣縮バイオマーカーとしての分泌型RAGEの検証	上出 智也	附属病院	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
IL-10産生による中枢神経系悪性リンパ腫の免疫回避と増殖/浸潤機構の解明	笹川 泰生	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
独自の抗菌ヨード担持加工とCAOS技術を融合したカスタムメイドインプラントの開発	楯野 良知	附属病院	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞シートを用いた革新的半月板縫合術の確立-ウサギを用いた基礎研究-	中瀬 順介	附属病院	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
免疫寛容離脱を目的とした腎癌治療における脾臓摘除の可能性	野原 隆弘	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
精巣体積低下を伴う無精子症の原因の解明-X染色体遺伝子の網羅的解析-	飯島 将司	附属病院	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
上咽頭癌における新たなリキッド・バイオプシー法の開発と臨床応用	平井 信行	附属病院	¥2,200,000	補委	日本学術振興会
高濃度NaClによる抗癌剤内包ミセルの抗腫瘍効果増強とその動態	上野 貴雄	附属病院	¥900,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の組織内血小板による浸潤、転移能獲得機構の解明	北原 寛子	附属病院	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
放射線照射が脊椎の骨強度に与える影響 -特に骨質に着目して-	加藤 仁志	附属病院	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
Dual-energy CTにおける非造影下物質弁別システムの確立	濱口 隆史	附属病院	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対する小線源治療併用強度変調放射線治療における適切な臓器線量制約の確立	熊野 智康	附属病院	¥100,000	補委	日本学術振興会
肝癌に対する樹状細胞ワクチン療法の開発	北原 征明	附属病院	¥900,000	補委	日本学術振興会
腫瘍血管正常化に基づく頭頸部癌新規治療戦略	遠藤 一平	附属病院	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
脳アミロイドアンギオパチー関連炎症の発症機構の解明	坂井 健二	附属病院	¥500,000	補委	日本学術振興会
関節炎の発症及び進展における腸内細菌叢の役割の解明	藤井 博	附属病院	¥1,000,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥26,500,000

Danon病iPS細胞由来心筋・骨格筋細胞の解析と治療薬効果の評価	吉田 昌平	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
Th17細胞をターゲットとした皮膚疾患の治療	岡本 芳伸	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
画像検査を用いたIgG4関連疾患の病態解析および病勢評価法の確立	井上 大	附属病院	¥800,000	補委	日本学術振興会
β-catenin変異型肝細胞癌のGd-EOB-DTPA造影MRI所見	北尾 梓	附属病院	¥900,000	補委	日本学術振興会
門脈阻血に伴う多臓器うっ血の周術期における影響と多臓器相関	林 泰寛	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
脳血管保護因子：内在性分泌型RAGEの機能解明と治療への応用	清水 有	附属病院	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症からの多段階発癌モデルの作成	保野 由紀子	附属病院	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
健診コホートをを用いた慢性腎臓病の進展および改善因子の縦断的検討	遠山 直志	附属病院	¥600,000	補委	日本学術振興会
家族性高コレステロール血症の新規原因遺伝子の網羅的解析	多田 隼人	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞シートを使ったラット大腿骨骨欠損再建法の開発	吉田 泰久	附属病院	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
目的指向性行動から習慣への安定的移行を制御する側坐核可塑性の役割	戸田 重誠	附属病院	¥3,500,000	補委	日本学術振興会
アカデミアにおける臨床研究データ管理のCDISC準拠体制モデルの構築	高原 志津子	附属病院	¥955,000	補委	日本学術振興会
腎コロボーマ症候群特異的iPS細胞による腎臓病の病態解明	古市 賢吾	附属病院	¥350,000	補委	日本学術振興会
X線動画イメージングによる胸郭運動ならびに肺機能評価の試み	田中 利恵	保健学系	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
出血リスクを増大しない抗血栓療法に向けて：スタチンによる新たな血栓阻止機構の解明	關谷 暁子	保健学系	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
糖尿病ラットの廃用性筋萎縮に対する運動効果	間所 祥子	保健学系	¥2,300,000	補委	日本学術振興会
上肢手指の動作解析による巧緻性の新規定量化法の開発	中嶋 理帆	保健学系	¥300,000	補委	日本学術振興会
突発性正常圧水頭症における新たな揺動MRイメージング法と解析法の開発	大野 直樹	保健学系	¥500,000	補委	日本学術振興会
ドメスティック・バイオレンス被害女性の育児における困難感と回復を促す支援	藤田 景子	保健学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
C型慢性肝炎に対するIFN応答・不応答メカニズムの解明	白崎 尚芳	保健学系	¥800,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥23,405,000

発作性夜間血色素尿症 (PNH) 形質を利用したヒト造血幹細胞動態の解明	片桐 孝和	保健学系	¥500,000	補委	日本学術振興会
肝炎ウイルス治療後の肝発癌機序とバイオマーカーの同定に関する研究	本多 政夫	保健学系	¥4,850,000	補委	日本学術振興会
新規2型糖尿病骨代謝モデルによる糖尿病骨代謝機構解析と運動による改善法の提案	北村 敬一郎	保健学系	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
ヘムオキシゲナーゼ-1が造血幹細胞移植後治療成績におよぼす効果と新規治療戦略	森下 英理子	保健学系	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
新しい概念を有するX線CT装置の線量・エネルギー評価法の確立	松原 孝祐	保健学系	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
「糖尿病腎症療養認識パターン分類尺度」を活用した腎症教育プログラムの検証	松井 希代子	保健学系	¥650,000	補委	日本学術振興会
廃用性筋萎縮抑制効果の長軸部位別検証による臨床視点的プログラムの構築	山崎 俊明	保健学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
振動による重症虚血肢患者の虚血性疼痛緩和と創傷治癒がもたらすQOL向上の検討	大桑 麻由美	保健学系	¥530,000	補委	日本学術振興会
膠原病患者の運動負荷中の心機能と体力の検討	染矢 富士子	保健学系	¥300,000	補委	日本学術振興会
母指と手指の新しい機能評価法に関する研究	西村 誠次	保健学系	¥555,000	補委	日本学術振興会
廃用性萎縮後の下肢筋に対する筋機能回復のための至適負荷強度および介入時期の検討	田中 正二	保健学系	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
骨盤前傾座位時の坐骨結節部皮膚からの感覚情報は体幹位置の位置情報になる	浅井 仁	保健学系	¥450,000	補委	日本学術振興会
介助動作re-positioningを頸部・腰部の圧迫力から判定する基礎的研究	柴田 克之	保健学系	¥1,580,000	補委	日本学術振興会
神経再生におけるcellular Factor XIII 活性化機構の解明	杉谷 加代	保健学系	¥1,150,000	補委	日本学術振興会
変形画像照合による積算線量分布の有用性を向上させる新たな部分的精度・信頼性の開発	武村 哲浩	保健学系	¥1,600,000	補委	日本学術振興会
一体型SPECT/CT装置における心電図同期X線CT撮影の減弱補正法の確立	小野口 昌久	保健学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
コンピュータ支援によるX線動態撮像ナビゲーションシステムの開発	真田 茂	保健学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
肥大型心筋症全例登録による発症と予後に関する要因および治療法解明に関する研究	藤野 陽	保健学系	¥1,450,000	補委	日本学術振興会
肝細胞膜トランスポーターイメージングによる早期肝細胞癌スクリーニング手技の確立	小林 聡	保健学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
乳児の泣きに対する母親育児支援プログラムの構築	田淵 紀子	保健学系	¥700,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥23,115,000

中枢神経障害および神経細胞移植におけるアストロサイト活性化の抑制効果	中川 敬夫	保健学系	¥800,000	補委	日本学術振興会
肝炎ウイルス複製を支持する新規肝癌由来培養細胞の樹立	本多 政夫	保健学系	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
乳幼児期および自閉症スペクトラム障害の社会性の発達に関連する脳機能の解明	吉村 優子	子どものこころの発達研究センター	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
オキシトシン療法による自閉症スペクトラム障害者の自己観の変化に関する脳科学的研究	棟居 俊夫	子どものこころの発達研究センター	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害幼児における遺伝子多型、脳内ネットワークと表現型の関係	菊知 充	子どものこころの発達研究センター	¥2,200,000	補委	日本学術振興会
自閉症障害の神経ネットワーク異常に関する研究：非線形解析による脳形態生理学的検討	高橋 哲也	子どものこころの発達研究センター	¥400,000	補委	日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害幼児における、知覚入力と「こころ」の形成過程の関係	菊知 充	子どものこころの発達研究センター	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症に対するプロバゲルマニウムの実用化を目指した橋渡し研究	原 章規	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来の造血幹細胞を利用した再生不良性貧血自己抗原の同定	中尾 眞二	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
内分泌器官としての肝臓病学の確立	金子 周一	医学系	¥2,960,000	補委	日本学術振興会
オミクス情報を駆使した全身型特発性関節炎分子病態の解明と先制医療開発	谷内江 昭宏	医学系	¥5,300,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮細胞癌の浸潤・転移機序の解明ならびに浸潤・転移阻止実験	川尻 秀一	医学系	¥4,500,000	補委	日本学術振興会
単細胞トランスクリプトームによる細胞階層性構造の解明	橋本 真一	医学系	¥4,100,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の病態におけるKv9.3カリウムチャンネルサブユニットの重要性について	橋本 隆紀	医学系	¥2,550,000	補委	日本学術振興会
悪性骨腫瘍に対する液体窒素処理と樹状細胞療法の併用療法	西田 英司	医学系	¥1,800,000	補委	日本学術振興会
糖尿病臓器合併症の個別化医療にむけた抗エリスロポエチン受容体抗体の基礎臨床的検討	和田 隆志	医学系	¥2,500,000	補委	日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる悪性グリオーマに対する新規化学療法の基盤構築	中田 光俊	医学系	¥3,100,000	補委	日本学術振興会
蛍光イメージングを用いた悪性骨軟部腫瘍の転移機序の解明と新規治療法の開発	土屋 弘行	医学系	¥1,900,000	補委	日本学術振興会
AR Axis・微小環境を考慮した前立腺癌進行の機序解明と革新的治療戦略の構築	並木 幹夫	医学系	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
胚由来の胚着床誘導因子（胚シグナル）の同定と臨床応用への試み	藤原 浩	医学系	¥1,700,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥43,510,000

代償性増殖による上咽頭癌発 癌機構の解明と治療戦略	吉崎 智一	医学系	¥2,400,000	補 委	日本学術 振興会
自己免疫性疾患におけるオー トファジー異常の役割の解明	佐々木 素子	医学系	¥1,500,000	補 委	日本学術 振興会
MLPAとFISHを用いたヒト固形 癌における遺伝子増幅の網羅 的研究	大井 章史	医学系	¥500,000	補 委	日本学術 振興会
原発性胆汁性肝硬変の胆管病 変におけるエネルギー代謝の 解析と治療戦略	原田 憲一	医学系	¥800,000	補 委	日本学術 振興会
院外心停止に対する蘇生中止 基準に関する研究	後藤 由和	医学系	¥1,600,000	補 委	日本学術 振興会
次世代ウェアラブルデバイ ス・スマートグラスを活用し た外来教育システムの構築と 評価	八木 邦公	医学系	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
次世代シーケンサーと蛋白 質アレイを用いた骨髄腫病態 解析と新規治療法の開発	高松 博幸	医学系	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
肝細胞癌における表面抗原発 現パターンに基づいた癌幹細 胞標的新規治療法の開発	大石 尚毅	医学系	¥1,400,000	補 委	日本学術 振興会
心房細動がもたらす凝固異常 の病態解析と血液診断法の開 発	加藤 武史	医学系	¥1,200,000	補 委	日本学術 振興会
エクソームシーケンスを用い た新規高比重リポ蛋白代謝制 御因子の発見とその機能解析	川尻 剛照	医学系	¥800,000	補 委	日本学術 振興会
ホスホリラーゼ異常リン酸化 による心不全発症機序の解明	今野 哲雄	医学系	¥700,000	補 委	日本学術 振興会
全身性強皮症におけるFcγRの 役割についての検討	濱口 儒人	医学系	¥2,200,000	補 委	日本学術 振興会
人工知能と心疾患リスクモデ ルとを統合した次世代型画像 診断システムの開発	中嶋 憲一	医学系	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
微弱磁場環境下・不凍物質添 加低温保存肺の移植に関する 研究	松本 勲	医学系	¥1,450,000	補 委	日本学術 振興会
RAGEにより誘導される骨肉腫 幹細胞モデルの確立とその分 子機構の解明	武内 章彦	医学系	¥1,235,000	補 委	日本学術 振興会
ステント摘出デバイスの開発 と臨床応用	内山 勝晴	医学系	¥150,000	補 委	日本学術 振興会
シミュレータの遠隔操作によ る小児救急医学教育の効果に ついて	太田 邦雄	医学系	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
心筋症における不整脈関連遺 伝子の検索と機能解析および 薬物的・非薬物的介入	井野 秀一	医学系	¥500,000	補 委	日本学術 振興会
地域医療における軽症糖尿病 患者に対する在宅健康サービ スの継続研究	米田 隆	医学系	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
全エクソンシーケンスによる 大腸癌の染色体不安定性の 原因となる新規遺伝子の同定	澤田 武	医学系	¥2,417,789	補 委	日本学術 振興会

小計 20件
¥25,352,789

細胞傷害性T細胞レセプターを用いた肝細胞癌免疫治療に関する基礎的検討	水腰 英四郎	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症の骨格筋細胞内反応と病態に関する研究	岩佐 和夫	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
ヘパトカインセレノプロテインPによる“運動療法抵抗性”誘導機構の解明	御簾 博文	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
胃癌腹膜播種における腹腔内マクロファージの機能解析と造腫瘍性についての実験的検討	伏田 幸夫	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
逆流性食道炎による食道発癌過程での炎症性微小環境の解明とその抑制	宮下 知治	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
自然免疫応答の賦活化を基盤とした膀胱新規薬物併用療法の開発	太田 哲生	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
浸潤性脳腫瘍が頭頂葉-前頭葉高次機能ネットワーク再構築に及ぼす影響の検討	林 裕	医学系	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
フラボノイドを用いた前立腺癌再燃の予防とドセタキセル感受性増強への応用	溝上 敦	医学系	¥600,000	補委	日本学術振興会
水疱性角膜症に対する新しい角膜内皮移植術 (DMEK) の確立と、術後視機能の解析	小林 顕	医学系	¥600,000	補委	日本学術振興会
MMP-3の歯髄炎での消炎効果と組織再生のメカニズムの解明	中村 博幸	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
血中循環がん細胞解析を利用した小細胞肺癌の新規治療標的・バイオマーカーの同定	木村 英晴	医学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
肺癌におけるcMetによるtopoisomeraseIの活性制御の解析	笠原 寿郎	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来間質細胞群の細胞分画特性解析と肝修復再生療法の開発	酒井 佳夫	医学系	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
内皮前駆細胞を流血中で捕捉・内皮化する新規スタントの開発と臨床応用	山岸 正和	医学系	¥1,110,000	補委	日本学術振興会
糖尿病病態形成ヘパトカイン・セレノプロテインPおよびその受容体の結晶構造解析	菊地 晶裕	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
細胞内蛋白分解系のエネルギー代謝恒常性維持における統合的役割の解明	篁 俊成	医学系	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
肝臓から分泌されるサイトカインの骨粗鬆症への影響	石井 清朗	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
全身型若年性特発性関節炎の発症に関する分子免疫学的解析とその臨床応用	清水 正樹	医学系	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症ならびに強皮症モデルマウスにおけるSyk阻害剤の有効性の検討	竹原 和彦	医学系	¥600,000	補委	日本学術振興会
新規MDCT撮像法、MRIによる、膀胱手術後膀胱瘻発生高リスク群予測に関する研究	北川 裕久	医学系	¥500,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥20,210,000

放射線照射が硬膜に及ぼす影響 —照射後髄液漏の原因究明—	村上 英樹	医学系	¥500,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いたショックへの新しい治療戦略	谷口 巧	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
ヒト乳頭腫ウイルスシグナル伝達に着目した喉頭乳頭腫に対する新規治療の開発	室野 重之	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
近視緑内障の病態解明と診断力アップのためのOCTプログラムの開発	杉山 和久	医学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
メトホルミンによるインスリン抵抗性誘導へパトカインLECT2の発現抑制機構の解明	高山 浩昭	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
胃癌微小環境における脂肪由来幹細胞の機能解析と間質線維化制御への応用	木下 淳	医学系	¥800,000	補委	日本学術振興会
Notch, Aktシグナル阻害によるグリオーマ幹細胞の完全制御	田中 慎吾	医学系	¥1,800,000	補委	日本学術振興会
HPV陽性中咽頭癌におけるウイルス発癌機構へのAIDの関与	中西 庸介	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
新規微小管作用薬による胃癌腹膜播種線維化抑制についての実験的検討	柄田 智也	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
牽引を加えた手関節の可動域訓練の臨床応用	多田 薫	医学系	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
易発癌性を引き起こす糖尿病患者免疫状態の解明	小村 卓也	医学系	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
ゼブラフィッシュを用いた肥大型心筋症の発症、進展機序の解明	宝達 明彦	医学系	¥500,000	補委	日本学術振興会
胃癌組織分化に関わる遺伝子の網羅的探索	中村 律子	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を背景とした肝硬変における形態変化機構の解明	尾崎 公美	医学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病と臓器連関の病態におけるergothioneine/OCTN1の関与	篠崎 康之	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
胸腺由来制御性T細胞のin vivoでの誘導による免疫制御の基礎的検討	濱野 良子	医学系	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
食道癌における放射線誘導性EMTと癌幹細胞分化制御に関する基礎的研究	岡本 浩一	医学系	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
GSK3 β を分子標的とする神経膠芽腫治療の基礎基盤の構築	宮下 勝吉	医学系	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
糖化ストレスが骨折治癒遷延に及ぼす影響の検証と糖尿病における新しい骨折治療の開発	松原 秀憲	医学系	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞を用いた半月板再生	五嶋 謙一	医学系	¥700,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥20,500,000

男性における尿路性器・咽頭・肛門のHPV感染率についての疫学調査	重原 一慶	医学系	¥800,000	補委	日本学術振興会
統合失調症のネットワーク障害とパルプアルブミン陽性ニューロンのKCNS3発現低下	橋本 隆紀	医学系	¥4,700,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の病態を修飾する腸内ウイルス叢を解明するメタゲノム解析	飯田 宗穂	医学系	¥800,000	補委	日本学術振興会
孤発性脳アミロイドアンギオパチーの伝播に関する研究	山田 正仁	医学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
骨髄不全におけるCXCR4陽性造血幹細胞を標的とした新規治療法の開発	中尾 眞二	医学系	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
RAGEが水頭症発生に及ぼす影響に関する研究	喜多 大輔	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
オートファジー細胞死誘導による頭頸部癌新規治療法の開発	辻 亮	医学系	¥600,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の大脳皮質抑制性介在ニューロン変化におけるGABA受容体遺伝子の役割	橋本 隆紀	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
標的タンパク発現プロファイルに基づく新規腫瘍分類の試み	中田 光俊	医学系	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
新規ドラッグデリバリー理論と新世代シスプラチンによる頭頸部癌治療法の開発	吉崎 智一	医学系	¥700,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の浸潤・転移における癌間質の役割	川尻 秀一	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
経血管インターベーションによる血管透過性の制御を介する抗腫瘍療法の開発	吉田 耕太郎	医学系	¥900,000	補委	日本学術振興会
マイクロ粒子の経動脈的注入における粒子と溶出薬剤の動態とその制御に関する実験的研究	香田 渉	医学系	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
脊椎腫瘍に対する免疫療法を併用した根治的手術(次世代TES)の骨癒合に関する研究	吉岡 克人	医薬保健学総合研究科	¥800,000	補委	日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を用いた遺伝性肝疾患の病態解析と治療への応用に関する研究	小林 武嗣	医薬保健学総合研究科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌の分子病理学的バイオマーカーと画像所見の関連に関する研究	松井 修	医薬保健学総合研究科	¥900,000	補委	日本学術振興会
EGFR遺伝子変異陰性肺癌におけるエルロチニブの効果予測因子の検討	曾根 崇	医薬保健学総合研究科	¥400,000	補委	日本学術振興会
多発性嚢胞腎における血管病変の発症および進展に関与する因子の解明	山田 和徳	医薬保健学総合研究科	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
ANGPTL8機能異常による冠動脈疾患進展の機序解明と制御	野原 淳	医薬保健学総合研究科	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
心不全及び背景疾患が脂肪由来間葉系幹細胞の再生誘導効率に与える影響についての検討	高島 伸一郎	医薬保健学総合研究科	¥1,500,000	補委	日本学術振興会

小計 20件
¥23,600,000

カロテノイドの炎症制御機構に着目した高機能型食品創出のための研究開発	太田 嗣人	脳・肝インターフェースメディシン研究センター	¥4,800,000	補委	日本学術振興会
機能性脂質の代謝制御に着目した非アルコール性脂肪肝炎の発がん機構の解明	太田 嗣人	脳・肝インターフェースメディシン研究センター	¥1,100,000	補委	日本学術振興会
血液凝固異常症等に関する研究	森下 英理子	保健学系	¥1,500,000	補委	厚生労働省
抗リン脂質抗体関連血小板減少症の病態解明と治療指針の構築に関する研究	森下 英理子	保健学系	¥200,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	山田 正仁	医学系	¥17,302,000	補委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	山田 正仁	医学系	¥1,000,000	補委	厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	和田 隆志	医学系	¥300,000	補委	厚生労働省
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジストリの構築	谷内江 昭宏	医学系	¥1,000,000	補委	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	山岸 正和	医学系	¥600,000	補委	厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	野原 淳	医学系	¥150,000	補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	土屋 弘行	医学系	¥300,000	補委	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	山田 正仁	医学系	¥200,000	補委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝臓疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	原田 憲一	医学系	¥120,000	補委	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	谷内江昭宏	医学系	¥1,000,000	補委	厚生労働省
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	太田 哲生	医学系	¥150,000	補委	厚生労働省
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する診断基準、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	谷内江昭宏	医学系	¥600,000	補委	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	竹原 和彦	医学系	¥300,000	補委	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	中尾 眞二	医学系	¥400,000	補委	厚生労働省
難治性の肝・胆道疾患に関する研究調査	原田 憲一	医学系	¥300,000	補委	厚生労働省
急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入対策に関する研究	島上 哲朗	附属病院	¥1,000,000	補委	厚生労働省

小計 20件
¥32,322,000

効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	島上 哲朗	附属病院	¥360,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	川野 充弘	附属病院	¥1,000,000	補委	厚生労働省
遺伝子診断に基づく不整脈疾患群の病態解明および診断基準・重症度分類・ガイドライン作成に関する研究	林 研至	附属病院	¥150,000	補委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	武田 仁勇	附属病院	¥200,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模施設研究	加畑 多文	附属病院	¥100,000	補委	厚生労働省

小計 5件
¥1,810,000

合計 263件
¥322,469,789

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入す
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Mizukoshi E, Nakagawa H, Kitahara M, Yamashita T, Arai K, Sunagozaka H, Fushimi K, Kobayashi E, Kishi H, Muraguchi A, Kaneko S.	Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Immunological features of T cells induced by human telomerase reverse transcriptase-derived peptides in patients with hepatocellular carcinoma.	Cancer Lett : 364 (2) 98-105, 2015
2	Mizukoshi E, Nakagawa H, Kitahara M, Yamashita T, Arai K, Sunagozaka H, Iida N, Fushimi K, Kaneko S.	Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa 920-8641, Japan.	Phase I trial of multidrug resistance-associated protein 3- derived peptide in patients with hepatocellular carcinoma.	Cancer Lett : 369 (1) 242-249, 2015
3	Terashima T, Yamashita T, Takata N, Nakagawa H, Toyama T, Arai K, Kitamura K, Yamashita T, Sakai Y, Mizukoshi E, Honda M, Kaneko S	Departments of Gastroenterology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan.	Post-progression survival and progression-free survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated by sorafenib	Hepatol Res : 46 (7) 650-656, 2016
4	Honda M, Shirasaki T, Terashima T, Kawaguchi K, Nakamura M, Oishi N, Wang X, Shimakami T, Okada H, Arai K, Yamashita T, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Kaneko S.	Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate School of Health Medicine, Japan Department of Advanced Medical Technology, Kanazawa University Graduate School of Health Medicine, Japan.	Hepatitis B Virus (HBV) Core- Related Antigen During Nucleos(t)ide Analog Therapy Is Related to Intra-hepatic HBV Replication and Development of Hepatocellular Carcinoma.	J Infect Dis : 213 (7) 1096-1106, 2016
5	Terashima T, Yamashita T, Horii R, Arai K, Kawaguchi K, Kitamura K, Yamashita T, Sakai Y, Mizukoshi E, Honda M, Kaneko S	Department of Gastroenterology, Kanazawa University Hospital, 13-1 Takara-machi, Kanazawa, Ishikawa, 920-8641, Japan.	Potential efficacy of therapies targeting intrahepatic lesions after sorafenib treatment of patients with hepatocellular carcinoma	BMC Cancer. : 16(1)338, 2016

5件

6	Okada H, Honda M, Campbell JS, Takegoshi K, Sakai Y, Yamashita T, Shirasaki T, Takabatake R, Nakamura M, Tanaka T, Kaneko S.	Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan	Inhibition of microRNA-214 ameliorates hepatic fibrosis and tumor incidence in platelet-derived growth factor C transgenic mice.	Cancer Sci : 106(9)1143-52, 2015
7	Terashima T, Yamashita T, Arai K, Kawaguchi K, Kitamura K, Yamashita T, Sakai Y, Mizukoshi E, Honda M, Kaneko S.	Department of Gastroenterology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan.	Response to chemotherapy improved hepatic reserve for patients with hepatocellular carcinoma and Child-Pugh B cirrhosis.	Cancer Sci. 2016 Jun 18. doi: 10.1111/cas.12992 . [Epub ahead of print]
8	Kawaguchi K, Honda M, Yamashita T, Okada H, Shirasaki T, Nishikawa M, Nio K, Arai K, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Kaneko S.	Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Japan.	Jagged1 DNA Copy Number Variation Is Associated with Poor Outcome in Liver Cancer.	Am J Pathol. 2016 Jun 14. pii: S0002-9440(16)30126-2. doi: 10.1016/j.ajpath.2016.04.011. [Epub ahead of print]
9	Hamaoka T, Murai H, Kaneko S, Usui S, Okabe Y, Tokuhisa H, Kato T, Furusho H, Sugiyama Y, Nakatsumi Y, Takata S, Takamura M.	Department of Disease Control and Homeostasis, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University Kanazawa, Japan.	Single-Unit Muscle Sympathetic Nerve Activity Reflects Sleep Apnea Severity, Especially in Severe Obstructive Sleep Apnea Patients.	Front Physiol. 7:66. Mar 2 2016
10	Kusayama T, Furusho H, Kashiwagi H, Kato T, Murai H, Usui S, Kaneko S, Takamura M.	Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Ishikawa, Japan.	Inflammation of left atrial epicardial adipose tissue is associated with paroxysmal atrial fibrillation.	J Cardiol. pii:S0914-5087(15) 00371-8. Dec 10. 2015
11	Okajima M, Takamura M, Taniguchi T	Intensive Care Unit, Kanazawa University Hospital, Kanazawa 920-8641, Japan.	Landiolol, an ultra-short-acting β 1-blocker, is useful for managing supraventricular tachyarrhythmias in sepsis.	World J Crit Care Med 4(3):251-7. Aug 4 2015

12	Murai H, Okuyama Y, Sakata Y, Kaneko S, Hamaoka T, Okabe Y, Usui S, Furusho H, Takamura M.	Department of Disease Control and Homeostasis, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Different responses of arterial blood pressure to electrical stimulation of the renal artery in patients with resistant hypertension.	Int J Cardiol. 190:296-8. 2015
13	Takeshita Y, Takamura T, Kita Y, Takazakura A, Kato K, Isobe Y, Kaneko S.	Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan.	Sitagliptin versus mitiglinide switched from mealtime dosing of a rapid-acting insulin analog in patients with type 2 diabetes: a randomized, parallel-group study.	BMJ Open Diabetes Res Care 3 (1) : e000122, 2015
14	Takazakura A, Sakurai M, Bando Y, Misu H, Takeshita Y, Kita Y, Shimizu A, Hayakawa T, Kato K, Kaneko S, Takamura T.	Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences Kanazawa, Japan.	Renoprotective effects of atorvastatin compared with pravastatin on progression of early diabetic nephropathy.	J Diabetes Investing 6 (3) : 346-353, 2015
15	Tada H, Kawashiri MA, Nohara A, Saito R, Tanaka Y, Nomura A, Konno T, Sakata K, Fujino N, Takamura T, Inazu A, Mabuchi H, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University, Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan.	Whole exome sequencing combined with integrated variant annotation prediction identifies asymptomatic Tangier disease with compound heterozygous mutations in ABCA1 gene.	Atherosclerosis. 240 (2) : 324-329, 2015
16	Yuki Isobe, Masaru Sakurai, Yuki Kita, Yumie Takeshita, Hirofumi Misu, Shuichi Kaneko and Toshinari Takamura	Department of Disease Control and Homeostasis Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences Kanazawa Japan.	Fat-free mass and calf circumference as body composition indices to determine non-exercise activity thermogenesis in patients with diabetes	J Diabetes Investig published online : 22 SEP 2015, DOI: 10.1111/jdi.12421
17	Kuroda K, Takeshita Y, Kaneko S, Takamura T.	Department of Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences Kanazawa, Ishikawa, Japan.	Bending of a vertical cannula without alarm during insulin pump therapy as a cause of unexpected hyperglycemia: A Japanese issue?	J Diabetes Investig. 6 (6) : 739-740, 2015

18	Komura T, Sakai Y, Harada K, Kawaguchi K, Takabatake H, Kitagawa H, Wada T, Honda M, Ohta T, Nakanuma Y, Kaneko S	Disease Control and Homeostasis, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Inflammatory features of pancreatic cancer highlighted by monocytes/macrophages and CD4+ T cells with clinical impact.	Cancer Sci 106 (6) : 672-686, 2015
19	Kitagawa K, Furuichi K, Sagara A, Shinozaki Y, Kitajima S, Toyama T, Hara A, Iwata Y, Sakai N, Shimizu M, Kaneko S, Wada T; Kanazawa Study Group for Renal Diseases and Hypertension	Division of Internal Medicine, National Hospital Organization Kanazawa Medical Center, Kanazawa, Japan.	Risk factors associated with relapse or infectious complications in Japanese patients with microscopic polyangiitis.	Clin Exp Nephrol. 2015 Nov 20. [Epub ahead of print] : 2015
20	Okumura T, Furuichi K, Higashide T, Sakurai M, Hashimoto S, Shinozaki Y, Hara A, Iwata Y, Sakai N, Sugiyama K, Kaneko S, Wada T	Department of Disease Control, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Association of PAX2 and Other Gene Mutations with the Clinical Manifestations of Renal Coloboma Syndrome.	PLoS One 10 (11) : e0142843, 2015
21	Toyama T, Furuichi K, Shimizu M, Hara A, Iwata Y, Sakai N, Perkovic V, Kobayashi M, Mano T, Kaneko S, Wada T	Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan; The George Institute for Global Health, University of Sydney, Sydney, NSW, Australia.	Relationship between Serum Uric Acid Levels and Chronic Kidney Disease in a Japanese Cohort with Normal or Mildly Reduced Kidney Function.	PLoS One 10 (9) : e0137449, 2015
22	Nakade Y, Toyama T, Furuichi K, Kitajima S, Miyajima Y, Fukamachi M, Sagara A, Shinozaki Y, Hara A, Shimizu M, Iwata Y, Oe H, Nagahara M, Horita H, Sakai Y, Kaneko S, Wada T	Clinical Laboratory, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan.	Impact of kidney function and urinary protein excretion on intima-media thickness in Japanese patients with type 2 diabetes.	Clin Exp Nephrol 19 (5) : 909-917, 2015
23	Itakura Y, Taga S, Iwata C, Teramachi H, Miyamoto K, Tsuchiya H, Wada T, Matsushita R	Department of Pharmacy, Hekinan Municipal Hospital, Aichi, Japan Division of Pharmaceutical Sciences, Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Structural Changes in Albumin Are a Possible Mechanism for Fluctuation of Cefazolin and Ibuprofen Plasma Protein Binding in Rats with Carcinogen-induced Osteosarcoma.	Anticancer Res 35 (4) : 2063-2070, 2015

24	Oshima M, Iwata Y, Furuichi K, Sakai N, Shimizu M, Hara A, Kitajima S, Toyama T, Shinozaki Y, Sagara A, Umeda E, Kaneko S, Arai S, Miyazaki T, Wada T	Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Ishikawa, Japan.	Association of apoptosis inhibitor of macrophage (AIM) expression with urinary protein and kidney dysfunction.	Clin Exp Nephrol. 2016 Feb 5. [Epub ahead of print] : 2016
25	Shimizu M, Furuichi K, Toyama T, Yamahana J, Ohkawa R, Igarashi K, Aoki J, Kaneko S, Yatomi Y, Wada T	Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Japan.	Serum Autotaxin Levels Are Associated with Proteinuria and Kidney Lesions in Japanese Type 2 Diabetic Patients with Biopsy-proven Diabetic Nephropathy.	Intern Med 55 (3) : 215-221, 2016
26	Kitajima S, Iwata Y, Furuichi K, Sagara A, Shinozaki Y, Toyama T, Sakai N, Shimizu M, Sakurai T, Kaneko S, Wada T	Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, 13-1 Takaramachi, Kanazawa, 920-8641, Japan. kitajimajima@ybb.ne.jp.	Messenger RNA expression profile of sleep-related genes in peripheral blood cells in patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol 20 (2) : 218-225, 2016
27	Shiori Nakagawa, Kengo Furuichi, Akihiro Sagara, Yasuyuki Shinozaki, Shinji Kitajima, Tadashi Toyama, Akinori Hara, Yasunori Iwata, Norihiko Sakai, Miho Shimizu, Kazuhiro Matsui, Shuichi Kaneko, Tatsuhiko Toyama, Takashi Wada	Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital	An Autopsy Case of Vertebrobasilar Dolichoectasia under Hemodialysis due to Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease.	CEN case reports 21 July epub ahead of print : 2015
28	Kitajima S, Kaneko S, Wada T	Division of Nephrology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan. kitajimajima@ybb.ne.jp.	Septic Pulmonary Embolism Caused by Internal Shunt Infection.	Ther Apher Dial 19 (5) : 524-525, 2015
29	Kawashiri MA, Sakata K, Gamou T, Kanaya H, Miwa K, Ueda K, Higashikata T, Mizuno S, Michishita I, Namura M, Nitta Y, Katsuda S, Okeie K, Hirase H, Tada H, Uchiyama K, Konno T, Hayashi K, Ino H, Nagase K, Terashima M, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Impact of combined lipid lowering with blood pressure control on coronary plaque regression: rationale and design of MILLION study.	Heart Vessels. 2015 Sep;30(5):580-6. doi: 10.1007/s00380-014-0522-7. Epub 2014 Jun 4.

30	Hayashi K, Konno T, Tada H, Tani S, Liu L, Fujino N, Nohara A, Hodatsu A, Tsuda T, Tanaka Y, Kawashiri MA, Ino H, Makita N, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Functional Characterization of Rare Variants Implicated in Susceptibility to Lone Atrial Fibrillation.	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2015 Oct;8(5):1095-104. doi: 10.1161/CIRCEP.114.002519. Epub 2015 Jun 30.
31	Sakata K, Namura M, Takagi T, Tama N, Inoki I, Terai H, Horita Y, Ikeda M, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Repeated occurrence of slow flow phenomenon during and late after sirolimus-eluting stent implantation.	Heart Vessels. 2015 May;30(3):406-9. doi: 10.1007/s00380-014-0477-8. Epub 2014 Jan 30.
32	Yoshimuta T, Yokoyama H, Okajima T, Tanaka H, Toyoda K, Nagatsuka K, Higashi M, Hayashi K, Kawashiri MA, Yasuda S, Yamagishi M	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Impact of Elevated D-Dimer on Diagnosis of Acute Aortic Dissection With Isolated Neurological Symptoms in Ischemic Stroke.	Circ J. 2015;79(8):1841-5. doi: 10.1253/circj.CJ-15-0050. Epub 2015 May 21.
33	Konno T, Nagata Y, Teramoto R, Fujino N, Nomura A, Tada H, Sakata K, Furusho H, Takamura M, Nakamura H, Kawashiri MA, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Japan; Research and Education Center for Innovative and Preventive Medicine, Kanazawa University, Kanazawa, Japan. Electronic address: konnokontetsu@staff.kanazawa-u.ac.jp.	Usefulness of Electrocardiographic Voltage to Determine Myocardial Fibrosis in Hypertrophic Cardiomyopathy.	Am J Cardiol. 2016 Feb 1;117(3):443-9. doi: 10.1016/j.amjcard.2015.11.015. Epub 2015 Nov 19.
34	Konno T, Hayashi K, Fujino N, Oka R, Nomura A, Nagata Y, Hodatsu A, Sakata H, Takamura M, Furusho H, Nakamura H, Kawashiri MA, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan.	Electrocardiographic QRS fragmentation as a marker for myocardial fibrosis in hypertrophic cardiomyopathy	J Cardiovasc Electrophysiol. 2015 Oct;26(10):1081-7. doi: 10.1111/jce.12742. Epub 2015 Aug 11.
35	Mori M, Yoshimuta T, Ohira M, Yagi M, Sakata K, Konno T, Kawashiri MA, Tomita S, Watanabe G, Iino K, Takemura H, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Impact of real-time three-dimensional transesophageal echocardiography on procedural success for mitral valve repair.	J Echocardiogr. 2015 Sep;13(3):100-6. doi: 10.1007/s12574-015-0255-3. Epub 2015 Jul 30.

36	Nakahashi T, Sakata K, Tsuda T, Tanaka Y, Ohira M, Mori M, Takata M, Kawashiri MA, Takemura H, Yamagishi M, Hayashi K	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan	Abrupt progression of ventricular septal perforation after primary angioplasty for acute myocardial infarction.	Cardiovasc Diagn Ther. 2015 Dec;5(6):479-83. doi: 10.3978/j.issn.2223-3652.2015.06.06.
37	Goto Y, Funada A, Nakatsu-Goto Y.	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kanazawa University Hospital	Neurological outcomes in children dead on hospital arrival.	Crit Care. 19:410, November 2015
38	Tada H, Hosomichi K, Okada H, Kawashiri MA, Nohara A, Inazu A, Tomizawa S, Tajima A, Mabuchi H, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University, Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan. Electronic address: ht240z@sa3.sonet.ne.jp.	A de novo mutation of the LDL receptor gene as the cause of familial hypercholesterolemia identified using whole exome sequencing.	Clin Chim Acta. 2016 Jan 30;453:194-6. doi: 10.1016/j.cca.2015.12.028. Epub 2015 Dec 23.
39	Tada H, Kawashiri MA, Yoshida T, Teramoto R, Nohara A, Konno T, Inazu A, Mabuchi H, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine.	Lipoprotein(a) in Familial Hypercholesterolemia With Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 (PCSK9) Gain-of-Function Mutations.	Circ J. 2016;80(2):512-8. doi: 10.1253/circj.CJ-15-0999. Epub 2015 Dec 2.
40	Tada H, Kawashiri MA, Konno T, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Common and Rare Variant Association Study for Plasma Lipids and Coronary Artery Disease.	J Atheroscler Thromb. 2016;23(3):241-56. doi: 10.5551/jat.31393. Epub 2015 Sep 3.
41	Tada H, Kawashiri MA, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan.	Atrial fibrillation: an inherited cardiovascular disease—a commentary on genetics of atrial fibrillation: from families to genomes.	J Hum Genet. 2016 Jan;61(1):3-4. doi: 10.1038/jhg.2015.63. Epub 2015 Jun 11.

42	Tada H, Kawashiri MA, Nohara A, Inazu A, Mabuchi H, Yamagishi M, Kenshi Hayashi	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Lipoprotein metabolism in familial hypercholesterolemia: Serial assessment using a one-step ultracentrifugation method	Practical Laboratory Medicine Volume 1, 1 April 2015, Pages 22-27
43	Tada H, Kawashiri MA, Yamagishi M, Hayashi K	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine.	Whole exome sequencing in monogenic dyslipidemias	J Atheroscler Thromb. 22:881-885, 2015
44	Tada H, Kawashiri MA, Nakahashi T, Yagi K, Chujo D, Ohbatake A, Mori Y, Mori S, Kometani M, Fujii H, Nohara A, Inazu A, Mabuchi H, Yamagishi M, Hayashi K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan	Clinical characteristics of Japanese patients with severe hypertriglyceridemia	J Clin Lipidol. 2015 Jul-Aug;9(4):519-24. doi: 10.1016/j.jacl.2015.05.004. Epub 2015 May 23.
45	Nagata Y, Konno T, Fujino N, Hodatsu A, Nomura A, Hayashi K, Nakamura H, Kawashiri MA, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan	Right ventricular hypertrophy is associated with cardiovascular events in hypertrophic cardiomyopathy: evidence from study with magnetic resonance.	Can J Cardiol. 2015 Jun;31(6):702-8. doi: 10.1016/j.cjca.2014.12.036. Epub 2015 Jan 24.
46	Yoshida S, Tada H, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Japan	Efficacy of Low-Density Lipoprotein Apheresis in Salvaging Critical Limb Ischemia Induced by Acute Thrombotic Occlusion on Peripheral Artery Disease.	Ther Apher Dial. 2015 Dec;19(6):624-6. doi: 10.1111/1744-9987.12324. Epub 2015 Sep 29.
47	Tanaka Y, Sakata K, Waseda Y, Fujimura T, Yamada K, Oyama T, Kawashiri MA, Yamagishi M.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Japan.	Xiphodynia Mimicking Acute Coronary Syndrome.	Intern Med. 2015;54(12):1563-6. doi: 10.2169/internalmedicine.54.3449. Epub 2015 Jun 15.

48	Tanaka Y, Yoshimuta T, Yamagishi M, Sakata K.	Division of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine,	Video-assisted transmitral resection of primary cardiac lipoma originated from the left ventricular apex	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2015 Apr;16(4):401. doi: 10.1093/ehjci/jeu 326. Epub 2015 Jan 14.
49	Hara S, Kobayashi N, Sakamoto K, Ueno T, Manabe S, Takashima Y, Hamada J, Pastan I, Fukamizu A, Matsusaka T, Nagata M.	Department of Kidney and Vascular Pathology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan and Division of Rheumatology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa, Ishikawa, Japan	Podocyte injury-driven lipid peroxidation accelerates the infiltration of glomerular foam cells in focal segmental glomerulosclerosis.	Am J Pathol. 2015 Aug;185(8):2118- 31. doi: 10.1016/j.ajpath. 2015.04.007. Epub 2015 Jun 11.
50	Kawano M, Suzuki Y, Yamada K, Mizushima I, Matsumura M, Nakajima K, Yamagishi M, Yamaguchi Y.	Division of Rheumatology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Ishikawa, Japan	Primary Sjögren' s syndrome with chronic tubulointerstitial nephritis and lymphadenopathy mimicking IgG4-related disease.	Mod Rheumatol. 2015 Jul;25(4):637-41. doi: 10.3109/14397595. 2013.844303. Epub 2013 Oct 21.
51	Sugimori N, Espinoza JL, Trung LQ, Takami A, Kondo Y, An DT, Sasaki M, Wakayama T, Nakao S.	Department of Hematology Oncology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa University, Kanazawa, Japan Takaramachi 13-1, Kanazawa, Japan.	Paraptosis cell death induction by the thiamine analog benfotiamine in leukemia cells.	PLoS One. 2015 Apr 7;10(4):e0120709.
52	Watanabe S, Waseda Y, Kimura H, Takato H, Ohata K, Kondo Y, Kasahara K, Nakao S.	Department of Hematology Oncology, Kanazawa University Hospital, Kanazawa University, Kanazawa, Japan Takaramachi 13-1, Kanazawa, Japan.	Pleuroparenchymal fibroelastosis: Distinct pulmonary physiological features in nine patients.	Respir Investig. 2015 Jul;53(4):149- 155.
53	Watanabe S, Waseda Y, Kimura H, Takato H, Ohata K, Kondo Y, Kasahara K, Nakao S.	Department of Respiratory Medicine, Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Ishikawa, Japan.	Imatinib for bronchiolitis obliterans after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Bone Marrow Transplant. 2015 Sep;50(9):1250- 1252.

54	Hosokawa K, Sugimori N, Katagiri T, Sasaki Y, Saito C, Seiki Y, Mochizuki K, Yamazaki H, Takami A, Nakao S.	Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Japan.	Increased glycosylphosphatidylinositol-anchored protein-deficient granulocytes define a benign subset of bone marrow failures in patients with trisomy 8.	Eur J Haematol. 2015 Sep;95(3):230-8
55	Zaimoku Y, Takahashi W, Iwaki N, Saito C, Yoshida A, Aoki G, Yamaguchi M, Nakao S.	a Cellular Transplantation Biology, Kanazawa University, Kanazawa, Japan	Human herpesvirus-8-unrelated primary effusion lymphoma of the elderly not associated with an increased serum lactate dehydrogenase level: A benign sub-group of effusion lymphoma without chemotherapy.	Leuk Lymphoma. 4:1-8 Epub 2016 Jan 4.
56	Hayashi K, Iwasa K, Morinaga A, Ono K, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences	Exacerbation of myasthenia gravis by intravenous peramivir.	Muscle Nerve 51:935-936, 2015
57	Nakamura K, Hamaguchi T, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences	Demyelinating polyneuropathy after long-term treatment with infliximab	Int J Rheum Dis (In Press) 2015 Jul 14.
58	Noguchi-Shinohara M, Ono K, Hamaguchi T, Iwasa K, Nagai T, Kobayashi S, Nakamura H, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Department of Food and Life-Science, Takasaki University of Health and Welfare, Research Center for Food Safety, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, Department of Environmental and Preventive Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences	Pharmacokinetics, safety and tolerability of Melissa officinalis extract which contained rosmarinic acid in healthy individuals: a randomized controlled trial.	PLoS One 10:e0126422, 2015
59	Sakai K, Ikeda Y, Ishida C, Matsumoto Y, Ono K, Iwasa K, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Department of Neurology, National Hospital Organization Iou Hospital, Department of Neurology, Ishikawa Prefectural Central Hospital	Inclusion body myositis with granuloma formation in muscle tissue	Neuromuscul Disord 25:706-712, 2015

60	Sakai K, Ishida C, Morinaga A, Takahashi K, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Department of Neurology, National Hospital Organization Iou Hospital, Department of Neurology, National Hospital Organization Nanao Hospital	Somatic sprouts and halo-like amorphous materials of the Purkinje cells in Huntington' s disease	Cerebellum 14:707-710, 2015
61	Samuraki M, Matsunari I, Yoshita M, Shima K, Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Clinical Research Department, the Medical and Pharmacological Research Center Foundation, Division of Nuclear Medicine, Department of Radiology, Saitama Medical University Hospital, Dementia Medical Center, Department of Neurology, and Institute for Clinical Research, National Hospital Organization Hokuriku Hospital	Cerebral amyloid angiopathy-related microbleeds correlate with glucose metabolism and brain volume in Alzheimer' s disease	J Alzheimers Dis 48:517-528, 2015
62	Shima K, Iwasa K, Yoshita M, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences	Vernet' s syndrome induced by internal jugular vein thrombosis	J Neurol Neurosurg Psychiatry (In Press) 2015 Sep 9.
63	Takahashi R, Ono K, Takamura Y, Mizuguchi M, Ikeda T, Nishijo H, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, System Emotional Science, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Science, University of Toyama, Faculty of Pharmaceutical Sciences, University of Toyama, Department of Neurology, National Hospital Organization Iou Hospital	Phenolic compounds prevent the oligomerization of α -synuclein and reduce synaptic toxicity	J Neurochem 134:943-955, 2015
64	Yamaguchi H, Sakai K, Yamada M	Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences	Tracking rheumatoid leptomeningitis on diffusion-weighted MRI	Intern Med 54:1569-1570, 2015
65	Yuko Yoshimura, Mitsuru Kikuchi, Hirotoishi Hiraishi, Chiaki Hasegawa, Tetsuya Takahashi, Gerard B. Remijn, Manabu Oi, Toshio Munesue, Haruhiro Higashida, Yoshio Minabe, and Haruyuki Kojima	Research Center for Child Mental Development, Kanazawa University	Atypical Development of the Central Auditory System in Young Children With Autism Spectrum Disorder	Autism Res. 2016 Jan 25. doi: 10.1002/aur.1604. [Epub ahead of print]

66	Tetsuya Takahashi, Yuko Yoshimura, Hirotoshi Hiraishi, Chiaki Hasegawa, Toshio Munesue, Haruhiro Higashida, Yoshio Minabe, and Mitsuru Kikuchi	Research Center for Child Mental Development, Kanazawa University	Enhanced Brain Signal Variability in Children with Autism Spectrum Disorder During Early Childhood	Hum Brain Mapp. 2016 Mar;37(3):1038- 50. doi: 10.1002/hbm.23089 . Epub 2015 Dec 21.
67	Munesue T, Nakamura H, Kikuchi M, Miura Y, Takeuchi N, Anme T, Nanba E, Adachi K, Tsubouchi K, Sai Y, Miyamoto K, Horike S, Yokoyama S, Nakatani H, Niida Y, Kosaka H, Minabe Y, Higashida H.	Research Center for Child Mental Development, Kanazawa University	Oxytocin for Male subjects with autism spectrum Disorder and comorbid intellectual Disabilities : a randomized Pilot study	Front Psychiatry. 2016 Jan 21;7:2. doi: 10.3389/fpsy.201 6.00002. eCollection 2016.
68	Wada T, Toma T, Yasui M, Inoue M, Kawa K, Imai K, Morio T, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan	Different Clinical Phenotypes in 2 Siblings With X-Linked Severe Combined Immunodeficiency.	J Investig Allergol Clin Immunol. 2016;26(1):63-5.
69	Takakura M, Shimizu M, Inoue N, Tasaki Y, Ishikawa S, Ohta K, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Iodine-induced non-autoimmune hypothyroidism in a patient with steroid-resistant nephrotic syndrome.	Pediatr Int. 2015 Oct;57(5):1055-6.
70	Sugimoto N, Leu H, Inoue N, Shimizu M, Toma T, Kuroda M, Saito T, Wada T, Yachie A.	Department of Physiology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, 13-1 Takara-machi, Kanazawa, 920-8640, Japan. ns@med.kanazawa-u.ac.jp.	The critical role of lipopolysaccharide in the upregulation of aquaporin 4 in glial cells treated with Shiga toxin.	J Biomed Sci. 2015 Sep 18:22:78.
71	Araki R, Nishimura R, Mase S, Fujiki T, Kuroda R, Maeba H, Koizumi S, Yachie A, Niida Y.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Japan.	Effective Prophylaxis Against Various Adverse Events from Mitochondrial Cytochrome b Gene Mutation Triggered by Transplant- Related Chemotherapy and Immunosuppressants.	Pediatr Blood Cancer. 2016 Feb;63(2):374.

72	Shimizu M, Nakagishi Y, Inoue N, Mizuta M, Ko G, Saikawa Y, Kubota T, Yamasaki Y, Takei S, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa 920-8641, Japan. Electronic address: shimizum@staff.kanazawa-u.ac.jp.	Interleukin-18 for predicting the development of macrophage activation syndrome in systemic juvenile idiopathic arthritis.	Clin Immunol. 2015 Oct;160(2):277-81.
73	Wada T, Akagi T, Muraoka M, Toma T, Kaji K, Agematsu K, Koeffler HP, Yokota T, Yachie A.	Department of Pediatrics, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, School of Medicine, Kanazawa University, Kanazawa 920-8641, Japan; taizo@staff.kanazawa-u.ac.jp.	A Novel In-Frame Deletion in the Leucine Zipper Domain of C/EBP ϵ Leads to Neutrophil-Specific Granule Deficiency.	J Immunol. 2015 Jul 1;195(1):80-6.
74	Sakakibara Y, Wada T, Muraoka M, Matsuda Y, Toma T, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Basophil activation by mosquito extracts in patients with hypersensitivity to mosquito bites.	Cancer Sci. 2015 Aug;106(8):965-71.
75	Kuroda M, Shimizu M, Inoue N, Ikeno I, Nakagawa H, Yokoi A, Niida Y, Konishi M, Kaneda H, Igarashi N, Yamahana J, Taneichi H, Kanegane H, Ito M, Saito S, Furuichi K, Wada T, Nakagawa M, Yokoyama H, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Serum tau protein as a marker of disease activity in enterohemorrhagic Escherichia coli 0111-induced hemolytic uremic syndrome.	Neurochem Int. 2015 Jun-Jul;85-86:24-30.
76	Shimizu M, Hamaguchi Y, Ishikawa S, Ueno K, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Successful treatment with tocilizumab of a psoriasiform skin lesion induced by etanercept in a patient with juvenile idiopathic arthritis.	Mod Rheumatol. 2015;25(6):972-3.
77	Hashida Y, Wada T, Saito T, Ohta K, Kasahara Y, Yachie A.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Early diagnosis of Danon disease: Flow cytometric detection of lysosome-associated membrane protein-2-negative leukocytes.	J Cardiol. 2015 Aug;66(2):168-74.

78	Ueno K, Shimizu M, Yokoyama T, Ishikawa S, Tasaki Y, Inoue N, Sugimoto N, Ohta K, Yachie A.	Department of Pediatrics, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, School of Medicine, Kanazawa University, 13-1 Takaramachi, Kanazawa, 920-8641, Japan.	Urinary neopterin: an immune activation marker in mesangial proliferative glomerulonephritis.	Clin Exp Nephrol. 2015 Apr;19(2):264-70.
79	Toshima F, Inoue D, Yoshida K, Yoneda N, Minami T, Kobayashi S, Ikdeda H, Matsui O, Gabata T	Department of Radiology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Adenosquamous carcinoma of pancreas: CT and MR imaging features in eight patients, with pathologic correlations and comparison with adenocarcinoma of pancreas	Abdom Radiol (NY). 2016 Mar;41(3):508-20.
80	Ueda F, Aburano H, Yoshie Y, Matsui O, Gabata T	Department of Advanced Medical Imaging, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University Department of Radiology, Kanazawa University Hospital	Malignant transformation of diffuse infiltrating glial neoplasm after prolonged stable period initially discovered with hypothalamic hamartoma	Neurol Neurochir Pol. 2015;49(6):441-5.
81	Yoneda N, Matsui O, Ikeno H, Inoue D, Yoshida K, Kitao A, Kozaka K, Kobayashi S, Gabata T, Ikeda H, Nakamura K, Ohta T	Department of Radiology, Kanazawa University Hospital	Correlation between Gd-E0B-DTPA-enhanced MR imaging findings and OATP1B3 expression in chemotherapy-associated sinusoidal obstruction syndrome	Abdom Imaging. 2015 Oct;40(8):3099-103.
82	Matsubara K, Sakuda K, Nunome H, Takata T, Koshida K, Gabata T	Department of Quantum Medical Technology, Faculty of Health Sciences, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University Department of Radiological Technology, Kanazawa University Hospital Department of Radiology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University	128-slice dual-source CT coronary angiography with prospectively electrocardiography-triggered high-pitch spiral mode: radiation dose, image quality, and diagnostic acceptability	Acta Radiol. 2016 Jan;57(1):25-32.
83	Aburano H, Ueda F, Yoshie Y, Matsui O, Nakada M, Hayashi Y, Gabata T	Department of Radiology, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Differences between glioblastomas and primary central nervous system lymphomas in 1H-magnetic resonance spectroscopy	Jpn J Radiol. 2015 Jul;33(7):392-403.

84	Inoue D, Yoshida K, Yoneda N, Ozaki K, Matsubara T, Nagai K, Okumura K, Toshima F, Toyama J, Minami T, Matsui O, Gabata T, Zen Y	Department of Radiology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science Pathology Network Section, Department of Diagnostic Pathology, Kobe University Graduate School of Medicine	IgG4-related disease: dataset of 235 consecutive patients	Medicine (Baltimore). 2015 Apr;94(15):e680.
85	Kitao A, Matsui O, Yoneda N, Kozaka K, Kobayashi S, Sanada J, Koda W, Minami T, Inoue D, Yoshida K, Yamashita T, Yamashita T, Kaneko S, Takamura H, Ohta T, Ikeda H, Nakanuma Y, Kita R, Gabata T	Departments of Radiology, Gastroenterology, Gastroenterologic Surgery, and Human Pathology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science Department of Gastroenterology, Osaka Red Cross Hospital	Hepatocellular Carcinoma with β -Catenin Mutation: Imaging and Pathologic Characteristics	Radiology. 2015 Jun;275(3):708-17
86	Hamaguchi Y, Matsushita T, Hasegawa M, Ueda-Hayakawa I, Sato S, Takehara K, Fujimoto M	a Department of Dermatology , Faculty of Medicine, Kanazawa University Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences , Kanazawa , Japan	High incidence of pulmonary arterial hypertension in systemic sclerosis patients with anti-centriole autoantibodies	Mod Rheumatol, 25(5), 798-801, 2015
87	Hamaguchi Y, Koderia M, Matsushita T, Hasegawa M, Inaba Y, Usuda T, Kuwana M, Takehara K, Fujimoto M	Kanazawa University, Kanazawa, Japan	Clinical and immunological predictors of scleroderma renal crisis for Japanese systemic sclerosis patients with anti-RNA polymerase III autoantibodies	Arthritis Rheumatol, 67(4), 1045-1052, 2015
88	Hamaguchi Y, Kuwana M, Fujimoto M	Kanazawa University, Kanazawa, Japan	Reply: To PMID 25512203	Arthritis Rheumatol, 67(9), 2548, 2015
89	Takeuchi A, Anzawa K, Mochizuki , Takehara K, Hamaguchi Y	Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Kanazawa University	Chromoblastomycosis caused by phialophora verrucosa on the hand	Eur J Dermatol, 25(3), 274-275, 2015

90	Tanaka N, Matsumoto I, Suzuki M, Kaneko M, Nitta K, Seguchi R, Ooi A, Takemura H.	Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan tanapiro@ipch.jp.	Chitosan tubes can restore the function of resected phrenic nerves.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2015 Jul;21(1):8-13. doi: 10.1093/icvts/ivv 091. Epub 2015 Apr 9.
91	Ohsima M, Waseda R, Tanaka N, Ueda H, Ooi A, Matsumoto I.	Department of Thoracic, Cardiovascular and General Surgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	A new fluorescent anatomic pulmonary segmentectomy using PDD endoscope system and vitamin B2: evaluation in a clinical setting using living animal.	Surg Endosc. 2016 Jan;30(1):339-45. doi: 10.1007/s00464- 015-4194-x. Epub 2015 Apr 17
92	Nitta K, Ishikawa N, Kawaguchi M, Ooi A, Watanabe G.	Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Thyroidectomy using pure natural orifice transluminal endoscopic surgery in a porcine model.	Artif Organs. 2015 May;39(5):441-5. doi: 10.1111/aor.12398 . Epub 2015 Mar 4.
93	Shimada M, Kawaguchi M, Ishikawa N, Watanabe G.	Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University School of Medicine , Kanazawa , Japan.	Saline-filled laparoscopic surgery: A basic study on partial hepatectomy in a rabbit model	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2015;24(4):218- 25. doi: 10.3109/13645706. 2014.995674. Epub 2014 Dec 26.
94	Terai S, Fushida S, Tsukada T, Kinoshita J, Oyama K, Okamoto K, Makino I, Tajima H, Ninomiya I, Fujimura T, Harada S, Ohta T.	Department of Gastroenterological Surgery, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Bone marrow derived "fibrocytes" contribute to tumor proliferation and fibrosis in gastric cancer	Gastric Cancer 18(2):306-313, 2014.05[Epub ahead of print] 2015.04
95	Fujimura T, Fushida S, Tsukada T, Kinoshita J, Oyama K, Miyashita T, Takamura H, Kinami S, Ohta T.	Gastroenterologic Surgery, Kanazawa University	A new stage of sentinel node navigation surgery in early gastric cancer	Gastric Cancer 18(2):210-217, 2014.11[Epub ahead of print] 2015.04

96	Nakanuma S, Miyashita T, Hayashi H, Tajima H, Takamura H, Tsukada T, Okamoto K, Sakai S, Makino I, Kinoshita J, Nakamura K, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Ninomiya I, Kitagawa H, Fushida S, Fujimura T, Ohta T.	Department of Gastroenterologic Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Extravasated platelet aggregation in liver zone 3 may correlate with the progression of sinusoidal obstructin syndrome following living donor liver transplantation:A case report	Experimental and Therapeutic Medicine 9(4) : 1119-1124, 2015.01 2015.04
97	Tajima H, Takamura H, Kitagawa H, Nakayama A, Shoji M, Watanabe T, Tsukada T, Nakanuma S, Okamoto K, Sakai S, Kinoshita J, Makino I, Nakamura K, Hayashi H, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Miyashita T, Ninomiya I, Fushida S, Fujimura T, Wakayama T, Iseki S, Ikeda H, Ohta T.	Department of Gastroenterologic Surgery, Kanazawa University, Graduate School of Medical Science	Multiple liver metastases of pancreatic solid pseudopapillary tumor treated with resection following chemotherapy and transcatheter arterial embolization:Acase report	Oncology Letters 9(4) :1733-1738, 2015.04
98	Fushida S, Kaji M, Oyama K, Hirono Y, Nezuka H, Takeda T, Tsukada T, Fujimoto D, Ohyama S, Fujimura T, Ohta T.	Department of Gastroenterological Surgery, Kanazawa University Hospital	Randomized Phase II trial of paclitaxel plus valproic acid vs paclitaxel alone as second-line therapy for patients with advanced gastric cancer	OncoTargets and Therapy 2015(8) : 939- 941, 2015.04
99	Tajima H, Ohta T, Miyashita T, Nakanuma S, Matoba M, Miyata T, Sakai S, Okamoto K, Makino I, Kinoshita J, Hayashi H, Nakamura K, Oyama K, Inokuchi M, Nakagawara H, Takamura H, Kitagawa H, Fushida S, Ikeda H.	Division of Cancer Medicine, Department of Gastroenterologic Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Oxaliplatin-based chemotherapy induces extravasated platelet aggregation in the liver	Molecular and Clinical Oncology 3(3) :555-558, 2015.01.30 2015.05
100	Makino I, Tajima H, Kitagawa H, Nakagawara H, Miyashita T, Nakanuma S, Hayashi H, Takamura H, Fushida S, Ohta T.	Department of Gastroenterologic Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	A Case of Severe Sepsis Presenting Marked Decrease of Neutrophils and Interesting Findings on Dynamic CT.	American Journal of Case Reports 16 : 322-327, 2015.05

101	Ooi A, Oyama T, Nakamura R, Tajiri R, Ikeda H, Fushida S, Nakamura H, Dobashi Y.	1] Department of Molecular and Cellular Pathology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, 2] Pathology Section, University Hospital	Semi-comprehensive analysis of gene amplification in gastric cancers using multiplex ligation-dependent probe amplification and fluorescence in situ hybridization	Modern Pathology 28(6) : 861-871, 2015. 03 (Epub ahead of print) 2015. 06
102	Ojima E, Fujimura T, Oyama K, Tsukada T, Kinoshita J, Miyashita T, Tajima H, Fushida S, Harada S, Mukaisho K, Hattori T, Ohta T.	Department of Gastroenterologic Surgery, Kanazawa University	Chemoprevention of esophageal adenocarcinoma in a rat model by ursodeoxycholic acid.	Clin Exp Med. 15(3) : 343-350, 2014 Jul 18. [Epub ahead of print] 2015. 08
103	Yamazaki R, Inokuchi M, Ishikawa S, Myojo S, Iwadare J, Bono Y, Mizumoto Y, Nakamura M, Takakura M, Iizuka T, Ohta T, Fujiwara H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Tamoxifen-induced ovarian hyperstimulation during premenopausal hormonal therapy for breast cancer in Japanese women	Springer Plus 4 : 425, 2015. 08
104	Kanou S	Department of Gastroenterologic Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Laparoscopic cholecystectomy with anatomical abnormality of cystic duct.	Surgical and Radiologic Anatomy 37(6) : 725, 2015. 08
105	Makino I	Department of Gastroenterologic Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	New classification for variations of hepatic arteries based on embryology and relationship with variations of portal vein and biliary tract	Surgical and Radiologic Anatomy 37(6) : 723, 2015. 08
106	Terakawa H	Department of Gastroenterologic Surgery, Kanazawa University	The distribution of the collagen fibers will be helpful to investigate the embryological rotation of the abdominal organs.	Surgical and Radiologic Anatomy 37(6) : 724, 2015. 08

107	Makita N, Ninomiya I, Tsukada T, Okamoto K, Harada S, Nakanuma S, Sakai S, Makino I, Kinoshita J, Hayashi H, Oyama K, Nakagawara H, Miyashita T, Tajima H, Takamura H, Fushida S, Ohta T.	Department of Gastroenterological Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Inhibitory effects of valproic acid in DNA doublestrand break repair after irradiation in esophageal squamous carcinoma cells. (学位論文)	Oncology Reports 34(3) : 1185-1192, 2015.06[Epub ahead of print] 2015.09
108	Nakanuma S, Takamura H, Shoji M, Hayashi H, Tajima H, Nakagawara H, Miyashita T, Kitagawa H, Tani T, Ohta T.	From the Department of Gastroenterologic Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Case Report of an ABO-Incompatible Living-Donor Liver Transplant for a Familial Amyloid Polyneuropathy Patient.	Experimental and Clinical Transplantation 13(5):479-481, 2014.09[Epub ahead of print] 2015.10
109	Kinoshita J, Fushida S, Tsukada T, Oyama K, Okamoto K, Makino I, Nakamura K, Miyashita T, Tajima H, Takamura H, Ninomiya I, Ohta T.	Department of Gastroenterologic Surgery Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medicine Science, Kanazawa University	Efficacy of conversion gastrectomy following docetaxel, cisplatin, and S-1 therapy in potentially resectable stage IV gastric cancer	Eur J Surg Oncol. 40(10) : 1354-1360, 2015.04[Epub ahead of print] 2015.10
110	Fushida S, Oyama K, Kaji M, Hirono Y, Kinoshita J, Tsukada T, Nezuka H, Nakano T, Noto M, Nishijima K, Fujimura T, Ohta T.	Department of Gastroenterological Surgery, Kanazawa University Hospital	A randomized multi-center phase II study of perioperative tiotropium intervention in gastric cancer patients with chronic obstructive pulmonary disease	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease 10:2177-2183, 2015.10
111	Mawatari T, Ninomiya I, Inokuchi M, Harada S, Hayashi H, Oyama K, Makino I, Nakagawara H, Miyashita T, Tajima H, Takamura H, Fushida S, Ohta T.	Gastroenterologic Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Valproic acid inhibits proliferation of HER2-expressing breast cancer cells by inducing cell cycle arrest and apoptosis through Hsp70 acetylation (学位論文)	Int J Oncology 47(6) : 2073-2081, 2015.10
112	Oyama T, Okamoto K, Nakamura R, Tajiri R, Ikeda H, Ninomiya I, Ooi A.	Department of Molecular and Cellular Pathology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Overexpression and gene amplification of both ERBB2 and EGFR in an esophageal squamous cell carcinoma revealed by fluorescence in situ hybridization, multiplex ligation-dependent probe amplification and immunohistochemistry	Pathology International 65(11) : 608-613, 2015.08 2015.11

113	Ninomiya I, Okamoto K, Tsukada T, Saito H, Fushida S, Ikeda H, Ohta T.	Gastroenterologic Surgery, Department of Oncology, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Thoracoscopic radical esophagectomy and laparoscopic transhiatal lymph node dissection for superficial esophageal cancer associated with lymph node metastases in the dorsal area of the thoracic aorta.	Journal of Surgical Case Reports 2015(1) : 25 2015. 12
114	Nakanuma S, Miyashita T, Hayashi H, Tajima H, Takamura H, Makino I, Oyama K, Nakagawara H, Fushida S, Ohta T.	Gastroenterologic Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Extravasated Platelet Aggregation in Liver Zone 3 Is Associated With Thrombocytopenia and Deterioration of Graft Function After Living-Donor Liver Transplant.	Experimental and Clinical Transplantation 13(6):556-62, 2015. 12
115	Ninomiya I, Okamoto K, Tsukada T, Kinoshita J, Oyama K, Fushida S, Osugi H, Ohta T.	Gastroenterologic Surgery, Department of Oncology, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Recurrence patterns and risk factors following thoracoscopic esophagectomy with radical lymph node dissection for thoracic esophageal squamous cell carcinoma	Molecular and Clinical Oncology 4 : 278-284, 2015. 12[Epub ahead of print] 2016. 01
116	Miyana S, Ninomiya I, Tsukada T, Okamoto K, Harada S, Nakanuma S, Sakai S, Makino I, Kinoshita J, Hayashi H, Nakamura K, Oyama K, Nakagawara H, Miyashita T, Tajima H, Takamura H, Fushida S, Ohta T.	Department of Gastroenterological Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Concentration-dependent radiosensitizing effect of docetaxel in esophageal squamous cell carcinoma cells.	Int J Oncology 48(2) : 517-524, 2015. 12 2016. 02
117	Miyashita T, Nakanuma S, Ahmed AK, Makino I, Hayashi H, Oyama K, Nakagawara H, Tajima H, Takamura H, Ninomiya I, Fushida S, Harmon JW, Ohta T.	Department of Gastroenterological Surgery, Kanazawa University Hospital	Ischemia reperfusion-facilitated sinusoidal endothelial cell injury in liver transplantation and the resulting impact of extravasated platelet aggregation	European Surgery 48(2) :92-98, 2015. 09 2016. 04
118	Hayashi H, Takamura H, Ohbatake Y, Nakanuma S, Makino I, Nakagawara H, Miyashita T, Tajima H, Fushida S, Ohta T.	Department of Gastroenterologic Surgery, Division of Cancer Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Postoperative neutrophil-to-lymphocyte ratio of living-donor liver transplant: Association with graft size.	Asian Journal of Surgery 39(2) :103-108, 2015. 12[Epub ahead of print] 2016. 04

119	Kabata T, Maeda T, Kajino Y, Hasegawa K, Inoue D, Yamamoto T, Takagi T, Ohmori T, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Iodine-Supported Hip Implants: Short Term Clinical Results.	Biomed Res Int. 368124, 2015.
120	Demura S, Murakami H, Hayashi H, Kato S, Yoshioka K, Yokogawa N, Ishii T, Igarashi T, Fang X, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	The influences of rod contouring of different spinal constructs on strength and stiffness.	Orthopedics. 38: e520-523, 2015.
121	Nakase J, Goshima K, Numata H, Oshima T, Takata Y, Tsuchiya H	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Precise risk factors for Osgood-Schlatter disease.	Arch Orthop Trauma Surg. 135: 1277-81, 2015.
122	Kato S, Murakami H, Demura S, Yoshioka K, Hayashi H, Yokogawa N, Fang X, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Gradual spinal cord decompression through migration of floated plaques after anterior decompression via a posterolateral approach for OPLL in the thoracic spine.	J Neurosurg Spine 23: 479-483, 2015.
123	Yoshioka K, Matsuda E, Murakami H, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Microendoscopic Excision of Osteoid Osteoma in the Pedicle of the Third Lumbar Vertebra.	Asian Spine J. 9: 958-961, 2015.
124	Yoshioka K, Murakami H, Demura S, Kato S, Kawahara N, Tomita K, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Spinal Metastasis from Subcutaneous Sacrococcygeal Ependymoma: A Case Report with Long-Term Follow-Up.	Surgery J. 1:e50-53, 2015.

125	Yoshioka K, Murakami H, Demura S, Kato S, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Mini-open transthoracic approach for resection of a calcified herniated thoracic disc and repair of the dural surface with fibrin glue: a case report.	J Orthop Surg (Hong Kong). 23: 243-246, 2015.
126	Tada K, Ikeda K, Okamoto S, Hachinota A, Yamamoto D, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Scaphoid Fracture – Overview and Conservative Treatment.	Hand Surg 20: 204-209, 2015.
127	Tada K, Kawashima H, Horie K, Sanada S, Nishimura S, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	An in vivo study of dynamic effects of wrist traction on the radiolunate and capitulunate joints.	Hand Therapy 20: 49-55, 2015.
128	Tada K, Okamoto S, Hachinota A, Yamamoto D, Yasutake H, Gonoji Y, Tokuumi Y, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Antibacterial and deodorizing effects of processed stockinet for cast immobilization.	AATCC Journal of Research 5: 8-10, 2015.
129	Takeuchi A, Yamamoto N, Shirai T, Nishida H, Hayashi K, Watanabe K, Miwa S, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Successful correction of tibial bone deformity through multiple surgical procedures, liquid nitrogen-pretreated bone tumor autograft, three-dimensional external fixation, and internal fixation in a patient with primary osteosarcoma: a case report.	BMC Surg. 15:124, 2015.
130	Miwa S, Yokogawa A, Kobayashi T, Nishimura T, Igarashi K, Inatani H, Tsuchiya.	Department of Orthopedic Surgery, Saiseikai Kanazawa Hospital † Department of Orthopedic Surgery, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Risk factors of recurrent lumbar disc herniation: A single center study and review of the literature	J Spinal Disord Tech 28: E265-9, 2015.

131	Miwa S, Yano S, Yamamoto M, Matsumoto Y, Uehara F, Toneri M, Murakami T, Kimura H, Hayashi K, Yamamoto N, Efimova EV, Tsuchiya H, Hoffman RM.	AntiCancer, Inc., San Diego, California; Department of Surgery, University of California, San Diego, California; Department of Orthopedic Surgery, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Ishikawa, Japan.	Real-time fluorescence imaging of the DNA damage repair response during mitosis.	J Cell Biochem 116: 661-6, 2015.
132	Kuroda K, Kabata T, Hayashi K, Maeda T, Kajino Y, Iwai S, Fujita K, Hasegawa K, Inoue D, Sugimoto N, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	The paracrine effect of adipose-derived stem cells inhibits osteoarthritis progression.	BMC Musculoskelet Disord. 16: 236. 2015.
133	Yokogawa N, Toribatake Y, Hayashi H, Yoneyama T, Watanabe T, Tsuchiya H	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Differences in gait characteristics of patients with lumbar spinal canal stenosis (L4 radiculopathy) and those with osteoarthritis of the hip.	PLoS One. 10: e0124745, 2015.
134	Yokogawa N, Murakami H, Demura S, Kato S, Yoshioka K, Hayashi H, Ishii T, Igarashi T, Fang X, Tsuchiya H	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Postoperative cerebrospinal fluid leakage associated with total en bloc spondylectomy.	Orthopedics. 38: e561-6, 2015.
135	Yokogawa N, Murakami H, Demura S, Kato S, Yoshioka K, Yamamoto M, Iseki S, Tsuchiya H	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Effects of radiation on spinal dura mater and surrounding tissue in mice.	PLoS One. 10: e0133806, 2015.
136	Inoue D, Kabata T, Maeda T, Kajino Y, Yamamoto T, Takagi T, Ohmori T, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	The value of bulk femoral head allograft in acetabular reconstruction using Kerboul-type plate.	Int Orthop. 39: 1839-44, 2015.

137	Inoue D, Kabata T, Maeda T, Kajino Y, Fujita K, Hasegawa K, Yamamoto T, Takagi T, Ohmori T, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Usefulness of three-dimensional templating software to quantify the contact state between implant and femur in total hip arthroplasty.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 25: 1293-300, 2015.
138	Oshima T, Nakase J, Numata H, Takata Y, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Common Peroneal Nerve Palsy with Multiple-Ligament Knee Injury and Distal Avulsion of the Biceps Femoris Tendon.	Case Rep Orthop. 306260, 2015.
139	Oshima T, Nakase J, Numata H, Takata Y, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Ultrasonography imaging of the anterolateral ligament using real-time virtual sonography.	Knee. 23: 198-202, 2015.
140	Takata Y, Nakase J, Numata H, Oshima T, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Repair and augmentation of a spontaneous patellar tendon rupture in a patient with Ehlers-Danlos syndrome: a case report.	Arch Orthop Trauma Surg. 135: 639-44, 2015.
141	Kensaku Abe, Akihiko Takeuchi, Norio Yamamoto, Katsuhiko Hayashi, Kaoru Tada, Shinji Miwa, Hiroyuki Inatani, Yu Aoki, Takashi Higuchi, Hiroyuki Tsuchiya	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Symptomatic small schwannoma is a risk factor for surgical complications and correlates with difficulty of enucleation.	SpringerPlus 4: 751, 2015.
142	Ohmori T, Maeda T, Kabata T, Kajino Y, Iwai S, Tsuchiya H.	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	The Accuracy of Initial Bone Cutting in Total Knee Arthroplasty.	Open J Orthop. 5: 297-304, 2015.

143	Sugita S, Murakami H, Demura S, Kato S, Yoshioka K, Yokogawa N, Tanaka S, Tsuchiya H	Department of orthopaedic surgery, Kanazawa University	Repeated total en bloc spondylectomy for spinal metastases at different sites in one patient.	Eur Spine J 23: 2196-2200, 2015.
144	Yoshifumi Kadono, Satoru Ueno, Daiki Iwamoto, Yuta Takezawa, Takahiro Nohara, Kouji Izumi, Atsushi Mizokami, and Mikio Namiki	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Chronological Urodynamic Evaluation of Changing Bladder and Urethral Functions After Robot-assisted Radical Prostatectomy	UROLOGY 85: 1441-1447, 2015
145	Hiroaki Iwamoto, Kazuyoshi Shigehara, Tohru Miyagi, Takao Nakashima, Masayoshi Shimamura, Mikio Namiki	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Efficacy of 2-time Prophylactic Intravenous Administration of Tazobactam/Piperacillin for Transrectal Ultrasound-guided Needle Biopsy of the Prostate	Prostate Int 3: 103-106, 2015
146	Maolake A, Izumi K, Takahashi R, Itai S, Machioka K, Yaegashi H, Nohara T, Kitagawa Y, Kadono Y, Konaka H, Mizokami A, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Efficacy of tegafur-uracil in advanced urothelial cancer patients after the treatment failure of platinum-based chemotherapy	Anticancer Res 35: 1603-1606, 2015
147	Kitagawa Y, Ueno S, Konaka H, Mizokami A, Hinotsu S, Akaza H, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Experience with androgen deprivation therapy for prostate cancer in Japan and future perspectives.	Curr Cancer Drug Targets 15: 314-326, 2015
148	Nakamura, Ritsuko; Oyama, Takeru; Tajiri, Ryosuke; Mizokami, Atsushi; Namiki, Mikio; Nakamoto, Masaru; Ooi, Akishi	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Expression and regulatory effects on cancer cell behavior of NELL1 and NELL2 in human renal cell carcinoma	Cancer Sci 106: 656-664, 2015

149	Hiroshi Yaegashi, M.D.; Izumi Kouji; Hiroyuki Konaka; Atsushi Mizokami; Mikio Namiki	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Long-term survival following multidisciplinary treatment in a case of metastatic sarcomatoid renal cell carcinoma: a case report.	J Med Case Rep 9:261, 2015
150	Kitagawa Y, Namiki M.	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Prostate-specific antigen-based population screening for prostate cancer: current status in Japan and future perspective in Asia	Asian J Androl 17: 475-480, 2015
151	Kitagawa Y, Urata S, Mizokami A, Nakashima K, Koshida K, Nakashima T, Miyazaki K, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Simple Risk Stratification to Detect Prostate Cancer with High Gleason Score in Repeat Biopsies in a Population Screening Follow-up Study	Anticancer Res 35: 5031-5036, 2015
152	Masashi Iijima and Mikio Namiki	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Testicular sperm extraction and varicocelectomy for severe male infertility.	J. Mamm. Ova Res. 32 : 11-17, 2015
153	Izumi K, Ikeda H, Maolake A, Machioka K, Nohara T, Narimoto K, Ueno S, Kadono Y, Kitagawa Y, Konaka H, Mizokami A, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	The relationship between prostate-specific antigen and TNM classification or Gleason score in prostate cancer patients with low prostate-specific antigen levels.	Prostate 75: 1034-1042, 2015
154	Kitagawa Y, Ueno S, Izumi K, Kadono Y, Mizokami A, Hinotsu S, Akaza H, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Clinical outcomes and nadir prostate-specific antigen (PSA) according to initial PSA levels in primary androgen deprivation therapy for metastatic prostate cancer	World J Urol. 34:319-27, 2016

155	Konaka H, Sugimoto K, Orikasa H, Iwamoto T, Takamura T, Takeda Y, Shigehara K, Iijima M, Koh E, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	EARTH study group. Effects of long-term androgen replacement therapy on the physical and mental statuses of aging males with late-onset hypogonadism: a multicenter randomized controlled trial in Japan (EARTH Study)	Asian J Androl 18:25-34, 2016
156	Izumi K.	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Editorial Comment from Dr Izumi to Clinical outcomes of patients with prostate cancer in Yokosuka City, Japan: A comparative study between patients detected by prostate-specific antigen-based population screening in Yokosuka and those detected by other than the screening.	Int J Urol. 2015 Aug;22(8):752-3.
157	TAITO NAKANO, YASUhide KITAGAWA, KOUJI IZUMI, HIROKO IKEDA and MIKIO NAMIKI	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Invasive urothelial carcinoma within a calyceal diverticulum associated with renal stones: A case report	Oncol Lett 10:2439-2441, 2015
158	Kadono Y, Ueno S, Kadomoto S, Iwamoto H, Takezawa Y, Nakashima K, Nohara T, Izumi K, Mizokami A, Gabata T, Namiki M	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Use of preoperative factors including urodynamic evaluations and nerve-sparing status for predicting urinary continence recovery after robot-assisted radical prostatectomy: Nerve-sparing technique contributes to the reduction of postprostatectomy incontinence.	Neurourol Urodyn 2015 Sep 9. doi: 10.1002/nau.22877
159	Kadono Y, Nohara T, Ueno S, Izumi K, Kitagawa Y, Konaka H, Mizokami A, Onozawa M, Hinotsu S, Akaza H, Namiki M.	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Validation of TNM classification for metastatic prostatic cancer treated using primary androgen deprivation therapy.	World J Urol. 34:261-7, 2016
160	Kouji Izumi, Atsushi Mizokami, Hsiu-Ping Lin, Hui-Min Ho, Hiroaki Iwamoto, Aerken Maolake, Ariunbold Natsagdorj, Yasuhide Kitagawa, Yoshifumi Kadono, Hiroshi Miyamoto, Chung-Kuei Huang, Mikio Namiki, Wen-Jye Lin	Department of Integrative Cancer Therapy and Urology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Serum chemokine (CC motif) ligand 2 level as a diagnostic, predictive, and prognostic biomarker for prostate cancer	Oncotarget 16:7:8389-98, 2016

161	Okuda T, Higashide T, Sakurai M, Fukuhira Y, Kaneko H, Shimomura M, Sugiyama K.	Department of Ophthalmology Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Paclitaxel-Releasing Thin Biodegradable Film for Prevention of Bleb Avascularity Without Compromising Filtration in Rabbits.	Transl Vis Sci Technol. 4(3):10, 2015
162	Kobayashi A, Yokogawa H, Mori N, Sugiyama K.	Department of Ophthalmology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Case series and techniques of Descemet's stripping automated endothelial keratoplasty for severe bullous keratopathy after birth injury	BMC Ophthalmology. 15:92, 2015
163	Higashide T, Ohkubo S, Sugiyama K	Department of Ophthalmology and Visual Science, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Long-Term Outcomes and Prognostic Factors of Trabeculectomy following Intraocular Bevacizumab Injection for Neovascular Glaucoma.	PLoS One. 10(8):e0135766, 2015
164	Yokogawa H, Kobayashi A, Mori N, Sugiyama K	Department of Ophthalmology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Mapping of dendritic lesions in patients with herpes simplex keratitis using in vivo confocal microscopy	Clinical Ophthalmology. 9:1771-7, 2015
165	Higashide T, Ohkubo S, Hangai M, Ito Y, Shimada N, Ohno-Matsui K, Terasaki H, Sugiyama K, Chew P, Li KK, Yoshimura N.	Department of Ophthalmology and Visual Science, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Influence of Clinical Factors and Magnification Correction on Normal Thickness Profiles of Macular Retinal Layers Using Optical Coherence Tomography.	PLoS One. 11(1):e0147782, 2016
166	Wakae H, Higashide T, Tsuneyama K, Nakamura T, Takahashi K, Sugiyama K.	Department of Ophthalmology and Visual Science, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Immunohistochemical Characterization of the Ectopic Epithelium Devoid of Goblet Cells From a Posttraumatic Iris Cyst Causing Mucogenic Glaucoma.	J Glaucoma. 25(3):e291-4., 2016

167	Murono S, Hamaguchi T, Yoshida H, Nakanishi N, Tsuji A, Endo K, Kondo S, Wakisaka N, Yamada M, Yoshizaki T	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, School of Medicine, Kanazawa University	Evaluation of dysphagia at the initial diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis.	Auris Nasus Larynx 42 3 213-7 2015
168	Murono S, Nakanishi Y, Tsuji A, Endo K, Kondo S, Wakisaka N, Yoshida H, Yoshizaki T	Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kanazawa University	Trends in the management of recurrent respiratory papillomatosis in Japan.	Auris Nasus Larynx 42 3 218- 20 2015
169	Endo K, Masatani T, Tsuji A, Kondo S, Wakisaka N, Murono S, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University	Thyroid dysfunction after intra- arterial chemotherapy for hypopharyngeal and laryngeal cancer.	Auris Nasus Larynx 42 3 231-4 2015
170	Wakisaka N, Yoshida S, Kondo S, Kita M, Endo K, Tsuji A, Murono S, Muramatsu M, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	HPV Status Determines the Efficacy of Adjuvant Chemotherapy With S-1, an Oral Fluorouracil Prodrug, in Oropharyngeal Cancer.	Ann Otol Rhinol Laryngol 124 5 400-6 2015
171	Wakisaka N, Yoshida S, Kondo S, Kita M, Sawada- Kitamura S, Endo K, Tsuji A, Nakanish Y, Murono S, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Induction of epithelial- mesenchymal transition and loss of podoplanin expression are associated with progression of lymph node metastases in human papillomavirus-related oropharyngeal carcinoma	Histopathol 66 6 771-80 2015
172	Wakisaka N, Hasegawa Y, Yoshimoto S, Miura K, Shiotani A, Yokoyama J, Sugasawa M, Moriyama-Kita M, Endo K, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology, and Head & Neck Surgery, Kanazawa University	Primary tumor-secreted lymphangiogenic factors induce pre-metastatic lymphvascular niche formation at sentinel lymph nodes in oral squamous cell carcinoma	PLoS One 10 12 e0144056 2015

173	Endo K, Ueno T, Kondo S, Wakisaka N, Murono S, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University	Successful treatment of thyroid carcinoma invading the trachea as a single-stage procedure: a case report	Case Reports in Clinical Medicine 4 2 50-4 2015
174	Komori T, Kondo S, Wakisaka N, Nakanishi Y, Nakanishi-Yagi S, Tsuji A, Endo K, Murono S, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology and Head and Neck Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	IL-18 is highly expressed in inflammatory infiltrates of submandibular glands in patients with immunoglobulin G4-related disease	Hum Pathol 46 12 1850-8 2015
175	Sugimoto H, Hatano M, Yoshida S, Sakumoto M, Kato H, Ito M, Yoshizaki T	Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kanazawa University Graduate School of Medical Science	Efficacy of concurrent superselective intra-arterial chemotherapy and radiotherapy for late-stage squamous cell carcinoma of the temporal bone	Clin Otolaryngol 40 5 500-4 2015
176	Endo K, Tsuji A, Kondo S, Wakisaka N, Murono S, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University	Carnitine is associated with fatigue following chemoradiotherapy for head and neck cancer	Acta Otolaryngol 135 8 846-52 2015
177	Yoshida S, Wakisaka N, Kondo S, Moriyama-Kita M, Hirai N, Endo K, Tsuji A, Nakanishi Y, Murono S, Yoshizaki T	Division of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Expression of secreted protein acidic and rich in cysteine is an independent prognostic indicator of a poor clinical outcome in oropharyngeal carcinoma patients	Acta Otolaryngol 136 2 189-94 2016
178	Kano M, Murono S, Yamamoto T, Yoshizaki T	Department of Otolaryngology, Tonami General Hospital; Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kanazawa University	Preoperative identification of the internal opening with the modified Killian's method in a case of pyriform sinus fistula	Am J Otolaryngol 37 1 38-40 2016

179	Takashi Iizuka	Department of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University	Post-delivery evaluation of morphological change in vein of galen aneurysmal malformation - possible parameter of long-term prognosis	Case Reports in Perinatal Medicine、5巻1号、41-44ページ、2015年
180	Misaki K, Uchiyama N, Mohri M, Hayashi Y, Ueda F, Nakada M.	Department of Neurosurgery, Division of Neuroscience, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Prediction of carotid artery in-stent restenosis by quantitative assessment of vulnerable plaque using computed tomography.	J Neuroradiol. 43(1):18-24, 2016
181	Nakajima R, Nakada M, Miyashita K, Kinoshita M, Okita H, Yahata T, Hayashi Y.	Pharmaceutical and health sciences, Kanazawa University	Intraoperative Motor Symptoms during Brain Tumor Resection in the Supplementary Motor Area (SMA) without Positive Mapping during Awake Surgery.	Neurol Med Chir (Tokyo). 55(5):442-50, 2015
182	Kinoshita M, Nakajima R, Shinohara H, Miyashita K, Tanaka S, Okita H, Nakada M, Hayashi Y.	Department of Neurosurgery, Division of Neuroscience, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Chronic spatial working memory deficit associated with the superior longitudinal fasciculus: a study using voxel-based lesion-symptom mapping and intraoperative direct stimulation in right prefrontal glioma surgery	J Neurosurg. 19: 1-9, 2016
183	Hayashi Y, Kita D, Iwato M, Nakanishi S, Hamada J.	Department of Neurosurgery, Division of Neuroscience, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Massive Hemorrhage from the Posterior Ethmoidal Artery during Transsphenoidal Surgery: Report of 2 cases.	Turkish Neurosurgery 25(5): 804-807, 2015
184	Hayashi Y, Iwato M, Kita D, Fukui I.	Department of Neurosurgery, Division of Neuroscience, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University	Spontaneous cerebrospinal fluid leakage through fistulas at the clivus repaired with endoscopic endonasal approach.	Surg Neurol Int 6: 106, 2015

185	Kayano D, Kinuya S.	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Iodine-131 metaiodobenzylguanidine therapy for neuroblastoma; reports so far and future perspective	Scientific World Journal 2015;2015:189135
186	Kinuya S, Yoshinaga K, Higuchi T, Jinguji M, Kurihara H, Kawamoto H	Department of Nuclear Medicine, Faculty of Medicine, College of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University	Draft guidelines regarding appropriate use of 131I-MIBG radiotherapy for neuroendocrine tumors: guideline drafting committee for radiotherapy with 131I-MIBG, committee for nuclear oncology and immunology, the Japanese Society of Nuclear Medicine	Ann Nucl Med 2015;2(6)9:543-552
187	Matsuo S, Nakajima K	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Assessment of cardiac sympathetic nerve function using 123I-metaiodobenzylguanidine scintigraphy: technical aspects and standardization	Ann Nucl Cardiol 2015 ;1(1); 27-35
188	Matsuo S, Nakajima K, Nakata T	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Prognostic value of cardiac sympathetic nerve imaging using long-term follow-up data - ischemic vs. non-ischemic heart failure etiology.	Circ J 2016 80(2):435-41
189	Matsuo S, Nakajima K, Onoguchi M, Wakabayashi H, Okuda K, Kinuya S	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Nuclear myocardial perfusion imaging using thallium-201 with novel multifocal collimator SPECT/CT: IQ-SPECT versus conventional protocols in normal subjects	Ann Nucl Med 2015; 29(5): 452-459
190	Nakajima K, Jacobson AF	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	123I MIBG: are there any additional roles in clinical practice of heart failure?	Ann Nucl Cardiol 2015; 1:1: 127-131

191	Nakajima K, Matsuo S, Wakabayashi H, Yokoyama K, Bunko H, Okuda K, Kinuya S, Nyström K, Edenbrandt L.	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Diagnostic performance of artificial neural network for detecting ischemia in myocardial perfusion imaging.	Circ J. 2015; 79(7): 1549-1556
192	Nakajima K, Nakata T	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Cardiac ¹²³ I-metaiodobenzylguanidine imaging for clinical decision-making: 22-year experience in Japan	J Nucl Med 2015; Jun;56 Suppl 4:11S-19S
193	Nakajima K, Nakata T, Matsuo S, Jacobson AF	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Creation of mortality risk charts using ¹²³ I meta-iodobenzylguanidine heart-to-mediastinum ratio in patients with heart failure: two- and five-year risk models	Eur Heart Journal Cardiovasc Imaging 2015 Dec 24. pii: jev322. (Epub ahead of print)
194	Nakajima K, Okuda K, Matsuo S, Agostini D	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	The time has come to standardize ¹²³ I MIBG heart-to-mediastinum ratios including planar and SPECT methods	Eur J Nucl Med Mol Imaging 2016; 43(2): 386-8
195	Nakajima K, Okuda K, Matsuo S, Kiso K, Kinuya S, Garcia EV.	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Comparison of phase dyssynchrony analysis using gated myocardial perfusion imaging with four software programs: based on the Japanese Society of Nuclear Medicine working group normal database	J Nucl Cardiol 2016 Feb 9. [Epub ahead of print]
196	Taki, J, Inaki, A, Wakabayashi, H, Matsunari, I, Imanaka-Yoshida, K, Ogawa, K, Hiroe, M, Shiba, K, Yoshida, T, Kinuya, S	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Effect of postconditioning on dynamic expression of tenascin-C and left ventricular remodeling after myocardial ischemia and reperfusion	Eur J Nucl Med and Molecular Imaging Research 2015;5 : 21.

197	Wakabayashi H, Saito J, Taki J, Hashimoto N, Tsuchiya H, Gabata T, Kinuya S	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Triple-phase contrast-enhanced MRI for the prediction of preoperative chemotherapeutic effect in patients with osteosarcoma: comparison with Tc- MIBI scintigraphy	Skeletal Radiol 2016; 45(1):87-95
198	Wakabayashi H, Taki J, Inaki A, Shiba K, Matsunari I, Kinuya S	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University Hospital	Correlation between Apoptosis and Left Ventricular Remodeling in Subacute Phase of Myocardial Ischemia and Reperfusion	EJNMMI Research 2015;5(1):72
199	Wakabayashi H, Taki J, Inaki A, Toratani A, Kayano D, Kinuya S	Department of Nuclear Medicine, Kanazawa University	Extremity radioactive iodine uptake on post-therapeutic whole body scan in patients with differentiated thyroid cancer	Asia Ocean J Nucl Med Biol 2015;3(1):26-34
200	Kimura I, Kitahara H, Ooi K, Kato K, Noguchi N, Yoshizawa K, Nakamura H, Kawashiri S	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Division of Cancer Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, Kanazawa, Ishikawa 920-8640, Japan.	Loss of epidermal growth factor receptor expression in oral squamous cell carcinoma is associated with invasiveness and epithelial-mesenchymal transition.	Oncol Lett, 2016, 11: 201-207.
201	Tanimoto A, Takeuchi S, Yaegashi H, Kotani H, Kitai H, Nanjo S, Ebi H, Yamashita K, Mouri H, Ohtsubo K, Ikeda H, Yano S.	Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University	Recurrence of renal cell carcinoma diagnosed using contralateral adrenal biopsy with endoscopic ultrasound-guided fine -needle aspiration.	Mol Clin Oncol 2016; 4(4):537- 40.
202	Nanjo S, Ebi H, Arai S, Takeuchi S, Yamada T, Mochizuki S, Okada Y, Nakada M, Yano S.	Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University	High efficacy of third generation EGFR inhibitor AZD9291 in a leptomeningeal carcinomatosis model with EGFR-mutant lung cancer cells.	Oncotarget 2016; 7(4):3847-56.

203	Kotani H, Ebi H, Kitai H, Nanjo S, Kita K, Huynh TG, Ooi A, Faber AC, Mino-Kenudson M, Yano S.	Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University	Co-active receptor tyrosine kinases mitigate the effect of FGFR inhibitors in FGFR1-amplified lung cancers with low FGFR1 protein expression.	Oncogene 2016; 35(27):3587-97.
204	Takeuchi S, Fukuda K, Arai S, Nanjo S, Kita K, Yamada T, Hara E, Nishihara H, Uehara H, Yano S.	Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University	Organ-specific efficacy of HSP90 inhibitor in multiple-organ metastasis model of chemorefractory small cell lung cancer.	Int J Cancer 2016; 138(5):1281-9.
205	Yamada T, Amann JM, Fukuda K, Takeuchi S, Fujita N, Uehara H, Iwakiri S, Itoi K, Shilo K, Yano S, Carbone DP.	Department of Internal Medicine, The Ohio State University Medical Center, Columbus, Ohio. Division of Medical Oncology, Cancer Research Institute, Kanazawa University	Akt Kinase-Interacting Protein 1 Signals through CREB to Drive Diffuse Malignant Mesothelioma.	Cancer Res 2015 ; 75(19):4188-97.
206	Yoneyama H, Tsushima H, Onoguchi M, Konishi T, Nakajima K, Matsuo S, Kayano D, Wakabayashi H, Inaki A, Kinuya S.	Department of Radiological Technology, Kanazawa University Hospital, Takara-machi 13-1, Kanazawa, Ishikawa, 920-8641, Japan, kizu@cf6.so-net.ne.jp.	Optimization of attenuation and scatter corrections in sentinel lymph node scintigraphy using SPECT/CT system	Annals of Nuclear Medicine. 2015 29(3):248-255.
207	Yoshikazu Goto et al.	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kanazawa University Hospital (金沢大学附属病院病院救急科)	Relationship Between the Duration of Cardiopulmonary Resuscitation and Favorable Neurological Outcomes After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Prospective, Nationwide, Population-Based Cohort Study.	J Am Heart Assoc, 5, e0028, 2016
208	T maeda, T Kamikura, Y Tanaka, A Yamashita, M Kubo, Y Takei, H Inaba	Department of Emergency Medical Science, Kanazawa University Graduate School of Medicine	Impact of bystander-performed ventilation on functional outcomes after cardiac arrest and factors associated with ventilation-only cardiopulmonary resuscitation: A large observation study.	Resuscitation, 91, 122-130, 2015

209	Koji Sato, Koji Kubota, Hiroyuki Oda, Takumi Taniguchi	Intensive Care Unit, Kanazawa University Hospital, Japan Department of Cardiology, Public Central Hospital of Matto Ishikawa, Japan koudy@lilac.ocn.ne.jp.	The impact of delirium on outcomes in acute, non-intubated cardiac patients	Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. 2015 Dec 21
210	Demura M, Demura Y, Takeda Y, Saijoh K.	Division of Endocrinology and Hypertension, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Dynamic regulation of the angiotensinogen gene by DNA methylation, which is influenced by various stimuli experienced in daily life.	Hypertens Res. 38(8):519-27, 2015
211	Shigehiro Karashima, Takashi Yoneda, Mitsuhiro Kometani, Masashi Ohe, Shunsuke Mori, Toshitaka Sawamura, Kenji Furukawa, Takashi Seta, Masakazu Yamagishi, Yoshiyu Takeda	Department of Internal Medicine, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, Kanazawa, Japan.	Comparison of eplerenone and spironolactone for the treatment of primary aldosteronism.	Hypertens Res. 39:133-137, 2015
212	Akashita G, Hosaka Y, Noda T, Isoda K, Shimada T, Sawamoto K, Miyamoto KI, Taniguchi T, Sai Y.	Department of Medicinal Informatics, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University	PK/PD analysis of biapenem in patients undergoing continuous hemodiafiltration	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 1:31 (2015)
213	Okada M, Okada M, Nishigami J, Yamaaki N, Furukawa K, Ohyama K, Shimada T, Sai Y	Department of Medicinal Informatics, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University	Effect of switching basal insulin regimen to degludec on quality of life in Japanese patients with type 1 and type 2 diabetes mellitus.	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 1:26 (2015) Sep
214	Shimada T, Nakanishi T, Tajima H, Yamazaki M, Yokono R, Takabayashi M, Shimada T, Sawamoto K, Miyamoto KI, Kitagawa H, Ohta T, Tamai I, Sai Y.	Department of Hospital Pharmacy, University Hospital, Kanazawa University	Saturable Hepatic Extraction of Gemcitabine Involves Biphasic Uptake Mediated by Nucleoside Transporters Equilibrative Nucleoside Transporter 1 and 2.	J Pharm Sci. 104(9): 3162-9, (2015) Sep

6件

214件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 審査対象に関する事項、委員会の組織に関する事項、委員会の会議に関する事項、申請手続き及び結果の報告に関する事項、疑義申立てに関する事項、迅速審査に関する事項、実施状況の調査等に関する事項、資料の入手に関する事項、委員会の運営に関する事項、記録の保存に関する事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の目的及び職務に関する事項、委員会の組織および組織運営に関する事項	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の研究責任者、研究分担者その他の研究の実施に携わる者又は今後研究の実施に携わる予定の者を対象に、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に関する事項、研究デザインに関する事項、臨床研究の品質保証に関する事項、その他医学系研究の実施に当たり必要となる知識・技術等に関連する事項について講習会を実施	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科（部）に所属し、大学病院（医員など）及び関連病院を循環しながら修練を行い、それぞれの学会等の専門医、あるいは認定医の資格の取得を目指すコースです。内科プログラム（所属する臓器別内科（診療科）の他の内科系診療科でも修練を行う等複数の診療科が協力連携して実施するプログラム）や総合診療を専門とする医師となるプログラムも可能となっています。診療技術の習得だけでなく、臨床研究も行うことが可能です。

2 研修の実績

研修医の人数	184人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項 (標榜診療科)
金子 周一	消化器内科	科長	34年	消化器内科
篁 俊成	内分泌・代謝内科	科長	28年	内分泌・代謝内科
川野 充弘	リウマチ・膠原病内科	科長	29年	リウマチ科
山岸 正和	循環器内科	科長	38年	循環器内科
和田 隆志	腎臓内科	科長	28年	腎臓内科
笠原 寿郎	呼吸器内科	科長	30年	呼吸器内科
中尾 眞二	血液内科	科長	36年	血液内科
山田 正仁	神経内科	科長	36年	神経内科
三邊 義雄	神経科精神科	科長	38年	精神科
谷内江 昭宏	小児科	科長	37年	小児科
香田 渉	放射線科	科長	21年	放射線診断科
熊野 智康	放射線治療科	科長	18年	放射線治療科
竹原 和彦	皮膚科	科長	37年	皮膚科
小川 恵子	漢方医学科	科長	19年	漢方内科
森山 秀樹	内分泌・総合外科	科長	14年	内分泌外科
竹村 博文	心臓血管外科	科長	31年	心臓血管外科
松本 勲	呼吸器外科	科長	25年	呼吸器外科
太田 哲生	肝胆膵・移植外科	科長	37年	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科
井口 雅史	乳腺科	科長	21年	乳腺外科
伏田 幸夫	胃腸外科	科長	30年	胃腸外科
土屋 弘行	整形外科	科長	33年	整形外科
溝上 敦	泌尿器科	科長	29年	泌尿器科
杉山 和久	眼科	科長	32年	眼科
吉崎 智一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	30年	耳鼻いんこう科
藤原 浩	産科婦人科	科長	33年	産婦人科
谷口 巧	麻酔科蘇生科	科長	25年	麻酔科
中田 光俊	脳神経外科	科長	22年	脳神経外科
絹谷 清剛	核医学診療科	科長	30年	放射線診断科
野村 英樹	総合診療科	科長	28年	内科
八幡 徹太郎	リハビリテーション科	科長	24年	
後藤 由和	救急科	科長	32年	救急科
谷口 巧	集中治療部	部長	25年	
矢野 聖二	がんセンター	センター長	26年	腫瘍内科、腫瘍外科
川尻 秀一	歯科口腔外科	科長	28年	歯科口腔外科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・新規採用職員オリエンテーション（詳細別紙）

新規採用職員に対し、本院職員として職務遂行に必要な知識及び心構え等の基本的な事項を習得させ、資質向上と業務効率の増進を図ることを目的とする。

・研修の期間・実施回数

・平成27年4月1日（水）～平成27年4月3日（金）

・研修の参加人数

・123名（うち、医師・歯科医師以外の者は90名）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. コンプライアンスに係る個別事項（個人情報、情報セキュリティ、研究費等の適正な執行）に関する研修会

2. 労務管理講習会

3. ハラスメント防止研修

4. 安全衛生講習会（メンタルトレーニング）

・研修の期間・実施回数

1. 平成27年10月14日（水）

2. 平成27年12月10日（木）

3. 平成28年2月15日（月）

4. 平成28年2月29日（月）

・研修の参加人数

1. 261名

2. 103名

3. 40名

4. 60名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 蒲田 敏文
管理担当者氏名	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器内科長 金子 周一 ・リウマチ・膠原病内科長 川野 充弘 ・循環器内科長 山岸 正和 ・血液内科長 中尾 眞二 ・神経内科長 山田 正仁 ・小児科長 谷内江 昭宏 ・放射線科長 香田 渉 ・皮膚科長 竹原 和彦 ・心臓血管外科長 竹村 博文 ・胃腸外科長 伏田 幸夫 ・内分泌・総合外科長 森山 秀樹 ・整形外科長 土屋 弘行 ・泌尿器科長 溝上 敦 ・耳鼻咽喉科・頭頸部外科長 吉崎 智一 ・麻酔科蘇生科長 谷口 巧 ・核医学診療科長 絹谷 清剛 ・リハビリテーション科長 八幡 徹太郎 ・病理診断科長 原田 憲一 ・総務課長 大久保 進 ・医事課長 北村 浩一 ・内分泌・代謝内科長 篁 俊成 ・呼吸器内科長 笠原 寿郎 ・腎臓内科長 和田 隆志 ・総合診療科長 野村 英樹 ・神経科精神科長 三邊 義雄 ・子どものこころの診療科長 菊知 充 ・放射線治療科長 熊野 智康 ・漢方医学科長 小川 恵子 ・呼吸器外科長 松本 勲 ・肝胆膵・移植外科長 太田 哲生 ・乳腺科長 井口 雅史 ・脊椎・脊髄外科長 村上 英樹 ・眼科長 杉山 和久 ・産科婦人科長 藤原 浩 ・脳神経外科長 中田 光俊 ・歯科口腔外科長 川尻 秀一 ・救急科長 後藤 由和 ・薬剤部長 崔 吉道 ・経営管理課長 竹中 隆宏

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	看護部、医事課
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	医事課
		紹介状	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	経営管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営管理課 医薬保健系事務部
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部

掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部、医事課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課、ME機器管理センター、放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課（予定）
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課（予定）
		監査委員会の設置状況	医事課（予定）
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課（予定）
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	医事課（予定）
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課（予定）		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 蒲田 敏文	
閲覧担当者氏名	総務課長 大久保 進	
閲覧の求めに応じる場所	会議室	
閲覧の手続の概要 諸記録の開示（閲覧を含む）を請求する者（以下「開示請求者」）は、国立大学法人金沢大学に対し、法人文書開示請求書を提出する。 国立大学法人金沢大学は、開示請求があった日から特別な場合を除き30日以内に開示決定等を行い、開示請求者に通知する。 開示請求者は、法人文書開示決定通知書を本院へ持参し、閲覧を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無										
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 職員ひとりひとりが安全に関する認識を高め、医療事故防止に積極的に取り組むと同時に、病院全体としても組織的に医療に係る安全管理事故防止に取り組む、医療事故等の未然の防止を目指す。</p> <p>(2) 医療安全管理委員会、医療安全管理部、医療安全管理者、リスクマネージャー等による医療安全管理体制を整備し、病院全体として医療事故防止及び医療全体の向上に努める。</p> <p>(3) 医療安全管理のための研修を企画し、病院職員全体が 2 回以上受講できるようにする。</p> <p>(4) 「医療事故防止マニュアル」の作成、医療事故等の報告事例の検討など、医療安全の確保を目的とした改善策を実施する。</p> <p>(5) 医療事故が発生した場合には、「医療安全管理マニュアル」に沿って対応し、医療上の最善の処置を講ずる。また、患者家族に対して事実を速やかにわかりやすく説明する。</p> <p>(6) 患者との信頼関係を築くため、また開かれた医療を推進するため、情報の開示及び提供に積極的に対応していく。</p> <p>(7) 患者相談室を設置し、患者及び家族からの医療安全に関する要望、苦情及び不満を真摯に受け止め、その解決に尽力する。</p>											
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況											
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療に係る安全管理対策に関すること。</p> <p>(2) 医療事故防止対策に関すること。</p> <p>(3) 発生した医療事故等の原因の調査及び分析に関すること。</p> <p>(4) 分析結果を活用した改善策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</p> <p>(5) 改善策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること。</p> <p>(6) 患者が死亡若しくは死産した場合及び濃厚な処置や治療を要した事象が発生した場合の報告の実施状況の確認に関すること。</p> <p>(7) 安全管理のための教育及び研修に関すること。</p> <p>(8) その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。</p> <p>(9) 改善策の実施状況の調査等の目的のため、定期的に関係部署の巡回を行う。</p>											
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 0 回										
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【平成27年度】</p> <table border="0"><tr><td>「適切なカルテ記載について」 4/13</td><td>「医療安全管理マニュアル第 4 版の刊行について」 4/30</td></tr><tr><td>「インフォームドコンセント」 6/15</td><td>「医薬品安全管理 I」 7/1</td></tr><tr><td>「医薬品安全管理 2014」 8/5</td><td>「医療事故調査制度」 10/26</td></tr><tr><td>「医薬品安全管理 II」 11/24</td><td>「臨床倫理」 12/15</td></tr><tr><td>「疼痛緩和ケア最前線」 2/1</td><td>「医療機器安全管理」 2/23</td></tr></table> <p>【その他】 新規採用者研修 (随時開催)</p>		「適切なカルテ記載について」 4/13	「医療安全管理マニュアル第 4 版の刊行について」 4/30	「インフォームドコンセント」 6/15	「医薬品安全管理 I」 7/1	「医薬品安全管理 2014」 8/5	「医療事故調査制度」 10/26	「医薬品安全管理 II」 11/24	「臨床倫理」 12/15	「疼痛緩和ケア最前線」 2/1	「医療機器安全管理」 2/23
「適切なカルテ記載について」 4/13	「医療安全管理マニュアル第 4 版の刊行について」 4/30										
「インフォームドコンセント」 6/15	「医薬品安全管理 I」 7/1										
「医薬品安全管理 2014」 8/5	「医療事故調査制度」 10/26										
「医薬品安全管理 II」 11/24	「臨床倫理」 12/15										
「疼痛緩和ケア最前線」 2/1	「医療機器安全管理」 2/23										

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ○事故報告等の分析結果を現場へフィードバック | ○医療従事者の医療事故防止に関する教育 |
| ○事故防止のための基礎知識の提供 | ○事故報告書等から必要なマニュアルを作成 |
| ○インシデントサマリーに再発防止策を提案 | ○事故防止マニュアルの見直し |
| ○GRM等による医療現場のラウンド | ○院内の医療安全ニュースや啓発ポスターの配布 |
| ○院外の事故情報の提供による注意喚起 | |

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	② (有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための委員会に関する基本的事項3. 従事者に対する院内感染対策のための研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染症発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. 抗菌薬の適正使用に関する基本方針8. 院内感染対策の推進のために必要なその他の基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染予防の方策及び監視に関すること。(2) 院内感染対策のガイドラインの策定及びその実施に関すること。(3) 院内感染についての教育活動に関すること。(4) 院内感染の調査に関すること。(5) 感染制御部の運営に必要な事項に関すること。(6) その他院内感染に関して委員会が必要と認める事項。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【平成27年度】</p> <p>「院内感染対策マニュアル第6版」「抗菌薬適正使用マニュアル第4版」から伝えたい感染対策の基本」 4/30 「多種職による医療関連感染対策の成果」 7/31 「当院における感染対策の現状-国公立大学病院データ比較-」 1/12 「栄養ゼミナール」 12/7 「褥瘡対策チーム講演会」 2/10</p> <p>【その他】 新規採用者研修（随時開催）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染サーベイランスの実施と分析・評価・ ICTラウンドによる感染対策実施行動の確認と指導・ 職業感染防止対策のための計画・実施・改善・ 感染管理システムを活用した情報共有・ 感染制御担当者（ICM）による現場における院内感染対策活動の実施及び所属職員への周知徹底・ 院内感染対策マニュアルの改訂	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 平成27年度実施<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全研修（医薬品安全管理・第1回：平成27年7月1日開催） ①院内製剤 ②カリウム製剤の安全な投与2. 医療安全研修（医薬品安全管理・第2回：平成27年11月24日開催） ①本院における医薬品に関するインシデントについて ②医薬品関連事故防止と薬事とに関する最近の話題平成28年度実施<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全研修（医薬品安全管理・上半期：平成28年7月28日開催） ①医薬品の副作用に関連する制度について ②医薬品の損耗について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医薬品の採用2) 医薬品情報の収集・管理・提供3) 医薬品の購入管理4) 外来および入院患者への医薬品の処方・交付5) 病棟・中央診療施設・外来部門における医薬品の管理6) 外来および入院患者への情報提供および薬学的指導7) 院内製剤の取り扱い	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>未承認等の医薬品の使用の情報については調剤担当薬剤師や病棟担当薬剤師が処方鑑査で把握する。把握した内容を副薬剤部長が集約し、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に適宜報告するとともに、根拠資料（ガイドライン、文献等）を集積・保管する。</p><p>未承認等の医薬品および採用されている医薬品全般の情報については、医薬品情報管理担当薬剤師が添付文書の他、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集・管理し、必要なものについては当該医薬品を取り扱う医療スタッフに周知する。</p><p>医薬品安全管理責任者は、院内各部署に置く医薬品安全管理主任者（リスクマネージャーが兼務）の立ち会いの下に定期的に院内ラウンドを実施し、医薬品安全使用のための業務の実施状況を確認する。改善が必要と認められる事案についてはこれを指示し、結果を医療安全管理委員会に報告する。また未承認等医薬品の情報等をふまえ、必要に応じて診療科等に注意喚起情報を周知する。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 8 回
<p>・ 研修の主な内容： 平成27年度の主な内容として、人工心肺装置及び補助循環装置について7回、人工呼吸器について30回、血液浄化装置について2回、除細動装置について2回、閉鎖式保育器について4回、診療用高エネルギー放射線発生装置について3回、診療用放射線照射装置について2回、その他18回の研修を行った。医療機器の安全使用のための研修については、ME機器管理センターと放射線部が実施計画を策定して行っている。 新規購入した医療機器は、その都度、ME機器管理センターの技士が医療機器の安全使用のための研修を使用者を対象に行っている。放射線機器は放射線部が行っている。また、インシデントが発生した場合は、インシデント例をもとに院内で勉強会・研修を行い、周知している。方法はME機器管理センターの技士が院内を巡回し、使用現場で各医療機器ごとに行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無) ・ 保守点検の主な内容： 各機器の保守点検については、医療機器安全管理委員会で点検計画を策定して定期点検を実施している。使用者が使用前点検を行い、使用後に臨床工学技士や放射線技師が終業点検及び機能点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病院として医療機器安全管理委員会を設置し、医療機器の安全使用のために必要となる情報を収集し、共有のため月一回定例会を開催している。医療機器安全管理委員会は院内全体の組織として医療機器の把握および安全対策を行っている。 特定の医療機器に関しては、使用頻度の少ない部署に向けて、随時個別に研修会の開催を行っている。また、個別研修開催の後、理解度を図るため小テストを行い、理解度が低い部分に関してはその後の研修に反映させ、更なる理解を得られるようにしている。</p>	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者として、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1 名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>DI 担当者が PMDA メディナビやメーカーからの情報、文献、新聞等から収集、整理し、緊急度や周知すべき対象等に応じて、院内メールや印刷物の配布を行っている。また病棟担当者等による病棟勉強会や、院内の医薬品安全管理研修会での周知も定期的に行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>病棟担当者や調剤担当者が処方監査で未承認等の医薬品の処方を把握している。対応内容は、副薬剤部長に集約し、薬剤部長（医薬品暗線管理責任者）に適宜報告するとともに、エクセルファイルと根拠資料（ガイドラインや文献）をファイリングして、事例を集積している。今後は、電子カルテに JAPIC データベースを搭載し、病名でチェックするシステムを準備中である。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 有・無</p> <p>・規程の主な内容： 目的，対象，方法・手順，説明の内容・範囲，文書の様式，説明，同意，撤回・変更，記録・保管</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容： 病歴資料の管理 診療録の記載内容の確認 医療情報データの収集、管理、分析及び提供</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>【様式8提出済み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（12）名 うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名 うち放射線技師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち臨床工学士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち事務職：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名 <p>専従医師について、平成29年3月31日までに2名（特任准教授及び特任助教で、エフォート50%ずつ）を配置する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策の企画・立案に関すること。 (2) 医療安全管理マニュアルの作成等に関すること。 (3) 安全管理のための教育及び研修の企画・運営に関すること。 (4) アクシデント及びインシデント報告及び患者の死亡若しくは死産報告の調査・分析に関すること。 (5) リスクマネジャーとの連絡調整に関すること。 (6) 医療事故等に係る診療録及び看護記録等の記載状況の確認・指導に関すること。 (7) 患者及び家族等への説明等、医療事故発生時の対応状況の確認・指導に関すること。 (8) 医療事故等に係る原因究明の確認及び指導に関すること。 (9) 金沢大学附属病院医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成、保存その他当該委員会の事務に関すること。 (10) その他医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>【様式8提出済み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・規程の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） 	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>【様式8提出済み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・規程の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） 	

⑨ 監査委員会の設置状況	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<p>【様式8提出済み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法： 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

【様式 8 提出済み】

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 件
- ・ 医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 医療に係る安全管理対策に関すること。
 - (2) 医療事故防止対策に関すること。
 - (3) 発生した医療事故等の原因の調査及び分析及び改善策等に関すること。
 - (4) 分析結果を活用した改善策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。
 - (5) 改善策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること。
 - (6) 患者が死亡若しくは死産した場合及び濃厚な処置や治療を要した事象が発生した場合の報告の実施状況の確認に関すること。
 - (7) 安全管理のための教育及び研修に関すること。
 - (8) その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。
 - (9) 改善策の実施状況の調査等の目的のため、定期的に関係部署の巡回を行う。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

【様式 8 提出済み】

- ・ 他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ））・ （無）
- ・ 他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ））・ （無）
- ・ 技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

相談内容：○医療安全、診療などに関すること ○窓口業務（受付等）における接遇、対応に関すること ○医師、看護師、薬剤師等の医療技術職員、事務職員等の接遇、対応に関すること ○施設、環境、清掃等に関すること○その他、当院に関すること
相談責任者：副院長（医療安全担当）
医療安全管理者 ゼネラルリスクマネジャー
相談担当者：医療安全管理部 部長、副部長、ゼネラルリスクマネジャー（医療安全管理者）、部員（医師、看護師、薬剤師、技師、事務職員） 各診療科の医師
相談連絡先金沢大学附属病院 医事課医療安全係
相談時間午前 8 時 30 分～午後 5 時

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・ 無 ）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有・ 無 ）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・ 無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

【様式 8 提出済み】

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修
の実施状況

・ 研修の実施状況
【様式 8 提出済み】

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 時期：平成 27 年 5 月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院Webサイトにて情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 糖尿病及び糖尿病性腎症の重症化予防に取り組む糖尿病透析予防チーム、高度な栄養管理をチームとして実施する栄養サポートチーム、悪性腫瘍等の患者のうち、身体的症状又は精神症状を持つ者に対して症状緩和に係る専従のチームとして緩和ケアチーム、褥瘡の予防及び褥瘡発生時における適正な処理を図るため褥瘡対策チームを置いている。	

平成27年度新規採用職員オリエンテーション実施要項

- 1 目的 新規採用職員に対し、本院職員として職務遂行に必要な知識及び心構え等の基本的な事項を習得させ、資質の向上と業務能率の増進を図ることを目的とする。
- 2 期間 平成27年4月1日（水）～平成27年4月3日（金）
- 3 場所 外来診療棟4階 宝ホール
- 4 対象者 123名（平成27年4月1日現在）
内訳：看護部 64名
研修医 33名（1年：19名、2年：10名、歯科：4名）
その他 26名
- 5 内容
 - ・ 1日目
 - (1) 病院長訓示（「基本理念」、「基本方針」を含む。）
 - (2) 病院情報システムの利用について、経営戦略について
 - (3) 病院の概要について
 - (4) 経費の適正な管理について
 - (4) 医療用放射線の安全性について
 - (3) 事務手続きについて
 - (4) 医療用放射線の安全性について
 - (5) 接遇について
 - ・ 2日目
 - (6) 感染対策について
 - (7) 診療報酬制度について
 - (8) 先輩からのメッセージ
 - (9) 防火管理（防火訓練）について
 - ・ 3日目
 - (10) リスクマネジメントについて
（「患者さんの権利」、「患者さんに守っていただくこと」を含む。）
 - (11) 臨床倫理について（「個人情報の保護」を含む。）
 - (13) ハラスメントの防止について
 - (12) 飲酒運転の根絶について ※ 詳細は別添「日程表」のとおり

(様式第 8)

金大病総第 45 号
平成 28 年 9 月 7 日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人金沢大学長
山崎 光悦

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

本院では、副病院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者となっており、平成 28 年 9 月 30 日までに関係規程を改正し、明記する。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に基づく業務の実施の徹底のための措置を行わせる。

未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策を実施させる。

医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認を行わせる。

未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果を共有させる。

上記の措置を適切に実施するための担当者を定めさせる。

未承認等の医薬品の使用の体系的な把握に必要な医薬品データベースは平成 28 年 9 月 1 日に導入した。

医薬品安全管理責任者の業務追加について、平成 28 年 9 月 30 日までに関係規程を改正し、明記する。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 9 月 30 日まで、病院長が責任者を指名する。

平成 29 年 9 月 30 日までに、インフォームドコンセントに関する指針を制定し、責任者は病院長が指名することを明記する。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

内容、様式、運用について定めている本院のインフォームドコンセントに関するガイドラインを基に、平成 28 年 9 月 30 日までに「インフォームドコンセントに関する指針」として制定する。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

本院では、経営企画部長が責任者となっており、平成 28 年 9 月 30 日までに関係規程を改正し、明記する。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

措置を講ずることについて、平成 28 年 9 月 30 日までに関係規程を改正し、明記する。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

平成 28 年 9 月 30 日までに金沢大学附属病院内部通報実施要項を定め、本院顧問弁護士を窓口として設置する。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

方法について検討中である。

診療状況の把握及び従業者の意識向上の状況の確認実施について、平成 29 年 3 月 31 日までに関係規程を改正し、明記する。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

医療安全管理部門等の院内の既存の組織を活用することを検討している。

平成 29 年 3 月 31 日までに設置する。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

本年 10 月以降に関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入にあたっての基本的考え方」やガイドライン等を参考に、平成 29 年 3 月 31 日までに作成する。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

医療安全管理部門等の院内の既存の組織を活用することを検討している。

平成 29 年 3 月 31 日までに設置する。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 29 年 3 月 31 日までに作成する。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

委員について、地域の大学を中心に検討する予定である。

平成 29 年 3 月 31 日までに、規程を制定する。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

他の特定機能病院の管理者と協議の上、方法を決定し、平成 29 年 4 月 1 日以降実施する予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日以降の医療安全研修計画に、新規に追加された事項の研修を組み入れる。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院院長会議等が実施する研修に来年度から参加させる予定である。
医薬品安全管理責任者を日本病院薬剤師会が実施する医薬品安全管理責任者等講習会に参加させる。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（12）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（5）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名
- うち放射線技師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち臨床工学士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち事務職：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

専従薬剤師1名、専従看護師1名について、既に配置している。
専従医師について、平成29年3月31日までに2名（特任准教授及び特任助教で、エフォート50%ずつ）を配置する予定である。